

MATSUSHIRO CASTLE-TOWN RUINS 2ND

松代城下町跡(2)

～殿町～

八十二銀行松代支店新築工事にともなう
埋蔵文化財発掘調査報告書

2005年3月

長野市教育委員会

序

長野市は、彩り豊かな山並みを仰ぎ、千曲川・犀川の大河に描かれた肥沃の地に、悠久の歴史を刻んでいます。特に松代町は、昭和56年に国史跡に指定された松代城跡をはじめとする「史跡の町」として、全国的にも有数の観光拠点となっております。平成7年度から始めた松代城跡の環境整備事業も平成16年4月に完成し、それを契機として「エコール・ド・まつしろ2004」と題する生涯学習イベントを開幕しました。「エコール」とは、フランス語で「学校」という意味です。松代町全体を「趣味や生涯学習を楽しむ学校」として、来訪者に対して伝統芸能や武道などの公開や様々なおもてなし活動を行っております。活動を通して、地元と来訪者が楽しみ遊びながら学べる新しい観光地像を模索しています。

松代城下町は、真田10万石松代藩の城下町として、史跡松代城跡や象山神社などの著名な史跡のみならず、武家屋敷や神社仏閣などの町並みが往時の風情を今に残している、まさに町全体が「まるごと野外博物館」と言えるでしょう。このたび、八十二銀行松代支店が新築移転されることとなり記録保存を目的とした発掘調査を実施しました。ここに長野市の埋蔵文化財第110集として刊行いたします本書には、発掘調査によって得られた成果を詳しく掲載しております。調査成果は連線と繋られてきた人々の歴史のほんの一部にすぎませんが、地域史解明の一助としてお役立ていただければこの上ない喜びであります。

最後になりましたが、埋蔵文化財保護に対する深いご理解とご協力、ならびに発掘調査に際して多大なご尽力を賜りました株式会社八十二銀行本店総務部および松代支店の各位、近隣地元の皆様、そして建築工事を請け負われた建設業関係者、発掘作業に携わっていただきました地元発掘作業員の皆様、また、報告書刊行に至るまでご支援・ご指導賜りました関係機関・諸氏に厚く御礼申し上げ、本書の上梓をもってご挨拶にかえさせていただきます。

平成17年3月

長野市教育委員会
教育長 立 岩 隆 秀

例　　言

- 1 本書は、長野県長野市松代町松代における民間開発事業「八十二銀行松代支店新築工事」に先立ち実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査事業は、委託者 株式会社八十二銀行 取締役頭取 成澤一之 と、受託者 長野市長 鶴澤正一との埋蔵文化財発掘調査委託契約に基づき、平成15~16年度にかけて長野市教育委員会（文化財課埋蔵文化財センター担当）が実施した。
- 3 発掘調査地籍は、長野県長野市松代町松代（字殿町）174-1番地ほかである。開発事業の総面積約1,764m²のうち、その全域を埋蔵文化財保護対象面積とし、うち建物部分390m²を発掘調査の実施対象範囲とした。現地における発掘調査は平成15年度に実施し、整理調査は平成16年度に実施した。
- 4 現場における発掘調査は矢口の指導の下飯島が担当し、山野井が補助した。整理調査および本書の編集は飯島が担当し、各調査員・作業員が作業を分担した。執筆分担は次に示してある。
- 5 発掘調査の実施に際し、事業委託者である株式会社八十二銀行におかれでは、埋蔵文化財に対して深いご理解をいただき絶大なご協力を賜った。また保護協議、現場および整理作業において下記の方々・機関より有益なご指導・ご助言をいただいた。深甚なる謝意を表し明記するものである。（敬称略）
株式会社八十二銀行 本店総務部 小林健一副部長、宮島博男グループ長、町田源治郎調査役、塩川 敬
株式会社エーシーエ設計 設計部 深川好文部長、小林 健チーフ
長野県厚生農業協同組合連合会 長野松代総合病院 村松友雄事務長、松澤俊宏施設課長
株式会社アルカ 代表取締役 角張淳一、研究部土器課長 西本正憲
- 6 調査によって得られた諸資料は、長野市教育委員会文化財課埋蔵文化財センターで保管している。なお、出土遺物の注記記号は、「M J 82」と英数字で表記してある。
- 7 本書における資料掲載の要領は下記のとおりである。
 - (1) 基準点測量および造構測量は、平面直角座標系の第Ⅳ系の座標値（旧日本測定系）と日本水準原点の標高を基準とした。
 - (2) 検出した造構の略記号については、調査時に造構の性格や機能についてが不明であったことから、発見順に番号を付している。例として「①-1」は「第1次造構検出面の1号造構」という意味である。
 - (3) 遺物に関しては、原寸で実測図を作成した。本書では基本的に土器・陶磁器実測図1/4に統一してあるが、遺物の種類によってはこの限りではないため縮尺を明示してある。

本文目次

序文、例言、目次

第Ⅰ章 調査の経過	(飯島) ... 1
第1節 保護協議経過	1
第2節 調査日誌抄	2
第3節 調査体制	2
第Ⅱ章 発掘調査成果	(飯島) ... 3
第1節 発掘調査の概要	3
第2節 遺構と遺物	4
第Ⅲ章まとめ	(飯島) ... 38

報告書抄録、奥付

図版目次

第1図 周辺調査地位置図.....	1
第2図 1・2次面3次面遺構全体図	5
第3図 4次面遺構全体図.....	6
第4図 2次面1~6号遺構.....	7
第5図 2次面7~9号遺構.....	8
第6図 2次面7~9号遺構胴木.....	9
第7図 3次面10~18・23・29~30号遺構.....	10
第8図 3次面11・12号遺構	11
第9図 4次面1号遺構.....	12
第10図 4次面6号遺構.....	12
第11図 1次面1号遺構出土陶磁器.....	13
第12図 1次面1・3号遺構・検出面出土陶磁器	14
第13図 1次面出土陶磁器・土器.....	15
第14図 2次面1・2・3号遺構出土遺物.....	16
第15図 2次面4・5・6号遺構出土陶磁器.....	17
第16図 2次面6号遺構出土陶磁器.....	18
第17図 2次面7・9号遺構・検出面出土陶磁器・土器	19
第18図 2次面出土陶磁器.....	20
第19図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器.....	21
第20図 3次面10号遺構出土陶磁器.....	22
第21図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器・土製品	23
第22図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器	24
第23図 3次面10号遺構出土陶磁器	25
第24図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器	26
第25図 3次面10・11号遺構出土陶磁器・土器	27
第26図 3次面11・14・16・17号遺構出土陶磁器・土製品	28
第27図 3次面20・23号遺構出土陶磁器・土器	29
第28図 4次面1・2・6・24号遺構出土陶磁器	30
第29図 金属・骨角・ガラス製品	35
第30図 松代城下町の土地利用図	39

第Ⅰ章 調査経過

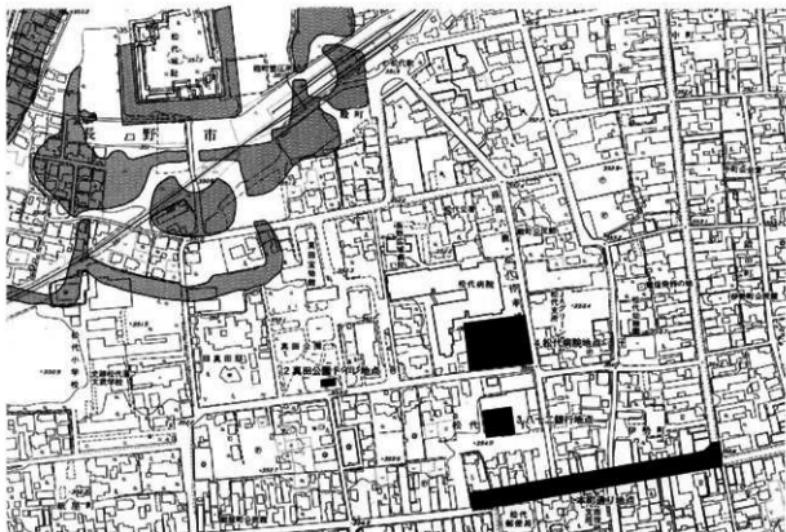
第1節 調査に至る経過

調査地は、埋蔵文化財包蔵地「松代城下町跡」範囲内に立地する。現況では、食料品スーパーの西友松代店や他の小規模店舗が同居する松代ショッピングセンターが存在した場所である。平成14年夏頃に西友松代店が営業を停止して以来、その敷地の一部を長野県厚生農業協同組合連合会長野松代病院の駐車場として利用される他は建物の残る空き地であった。

この地に株式会社八十二銀行松代支店新築移転が計画され、平成15年7月2日、開発側の設計担当者から埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。開発予定地は「松代城下町跡」範囲内であることから、遺跡が破壊される範囲について記録保存の為の発掘調査が必要となり、それに先だって、現在の埋蔵文化財包蔵状況を確認するため試掘調査を行うこととなった。同年7月22日、埋蔵文化財試掘調査依頼書および土地所有者の承諾書を受領した。同年7月28日に試掘調査を実施し、埋蔵文化財の包蔵を確認した。

同年8月8日「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出書」および「埋蔵文化財発掘調査依頼書」「土地所有者の承諾書」が提出され、同年9月26日付けで事業全体に關わる「埋蔵文化財発掘調査協定書」、平成15年度分の「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」を締結した。

発掘調査は平成15年10月1日より開始し、同年11月6日に終了した。発掘調査対象地は、全事業面積1,764m²のうち建物を建築する部分の390m²であった。



第1図 周辺調査位置図

第2節 調査日誌

【平成15年度 八十二銀行松代支店新築移転に伴う発掘調査】

9月30日	プレハブ設置、準備	24日	掘り下げ
10月1日	重機による表土掘削開始	27日	遺構掘削
6日	作業員による作業開始	29日	③次面全景写真撮影、遺構測量
7日	①次面・②次面遺構検出	30日	掘り下げ
14日	①次面・②次面全景写真撮影、遺構測量	11月4日	④次面遺構検出
20日	③次面遺構検出	5日	④次面全景写真撮影、遺構測量
23日	③次面全景写真撮影、遺構測量	6日	作業終了

第3節 調査体制

本調査は長野市長 鷲澤正一が受託し、長野市教育委員会の直轄事業として長野市埋蔵文化財センター（文化財課埋蔵文化財センター）が実施し、その組織は以下のとおりである。

調査主体者	長野市教育委員会	教育長	立岩 睦秀
調査機関	長野市埋蔵文化財センター	副参事兼所長	磯野 久夫（～H15年度）
		局主幹兼所長	矢口 忠良（H16年度～）
庶務担当係長	山岸 恒雄	事務員	吉村 久江
		事務員	塚田 容子
調査担当係長	青木 和明	専門員	遠藤恵実子
主査	飯島 哲也（調査主任）	専門員	長瀬 出
主査	風間 栄一（H15年度主事）	専門員	山野井智子（調査員）
主事	小林 和子	専門員	藤原 崇志（～H15年度）
専門員	小野由美子（～H15年度）	専門員	石丸 敦史
専門員	堀内 健次	専門員	小出 泰弘
専門員	宮川 明美（～H15年度）	専門員	森田 利枝
専門員	清水 竜太	専門員	宮沢 浩司（報告書福集）
専門員	山下 大輔（～H15年度）	専門員	山岸 千晃
発掘参加者	青木正次 一色茂喜 内山弘子 内山善徳 海沼けい子 齋田節子 小宮山盛雄 坂口一誠 坂口美知子 多城恵子 多門睦夫 新田早智子 橋爪孝次 半田芳子 保坂豊子 丸山武雄 宮尾秋男 宮尾秀男		
整理調査員	青木善子 池田寛子 多羅沢美恵子 烏羽徳子 中巖章子 武藤信子 矢口栄子		
整理作業員	食鳥敬子 小泉ひろ美 清水さゆり 関崎文子 富田景子 西尾千枝 三好明子 村松正子		
測量業務委託	株式会社写真測図研究所		
調査協力者	河西克造 北村典子 小林育英 宿野隆史 白沢勝彦 利根川淳子 原田和彦 降旗浩樹		

第Ⅱ章 発掘調査成果

第1節 調査概要

調査地は、神田川・姪川・藤沢川などによって形成された合流複合扇状地の、扇端部にあたる緩傾斜地に位置し、千曲川氾濫原に接している。このため調査地付近の基本層序は、上記3河川の扇状地堆積物と千曲川による氾濫原堆積物が主体をなす。

当該因事業の全事業面積1,764m²のうち、建物を建築する部分の390m²について発掘調査対象地とし、残りの駐車場予定部分は現状保存の措置とした。調査では4面の遺構検出面を確認した。

第1次遺構検出面（以下、①次面）は、カクラン除去後の現地表下約80cm付近に設定した。この面にて確認した遺構は、明治～昭和時代初期にかけての所産と考えられるが、一部コンクリート片を含む現代の掘り込みの痕跡も存在している。よって現代の掘り込みを1次面に伴う遺構とし、明治から昭和初期と想定される遺構を第2次遺構検出面（以下、②次面）に伴う遺構とした。

第3次遺構検出面（以下、③次面）は、現地表下約120cmの焼土層下面に設定した。第4次遺構検出面（以下、④次面）は、現地表下約150cmに設定した。これより下層はグライ化した青灰色の砂質土層と粘質土層が互層となり埋蔵文化財は存在しない。

遺構番号	目次番号	遺構名	性質	備考	時代	出土遺物団
①-1	(1)-1	柱礎	柱礎	地下鉄道コンクリート板敷、板間に周溝を上留め	第11・12回	
①-2	(1)-2	床面遺構	石・コンクリートの埋土、建物基礎か?	第12回		
①-3	(1)-3	床面遺構	石レンガの埋土			
①-4	(1)-4	床面遺構	石・コンクリートの埋土、建物基礎か?			
①-5	(1)-5	床面遺構	石レンガの埋土			
①-6	(1)-6	床面遺構	石・コンクリートの埋土、建物基礎か?			
②-1	(2)-1	断面遺構	石・レンガ片の埋土	第14回		
②-2	(2)-2	断面遺構	石・レンガ片の埋土	第14回		
②-3	(2)-3	断面遺構	石・レンガ片の埋土	第14回		
②-4	(2)-4	断面遺構	石・レンガ片の埋土	第14回		
②-5	(2)-5	断面遺構	石・レンガ片の埋土	第14回		
②-6	(2)-6	断面遺構	石・レンガ片の埋土	第14回		
②-7	(2)-7	石のみ遺構	瓦器・石器・骨器・木製品の軽便か?下に剥木	第17回		
②-8	(2)-8	石のみ遺構	瓦器・石器・骨器・木製品の軽便か?下に剥木	第17回		
②-9	(2)-9	石のみ遺構	瓦器・石器・骨器・木製品の軽便か?下に剥木	第17回		
②-10	(2)-10	焼土層	(2)～(7)より開拓された範囲 上面・中・底熱面と分類	第17回		
②-11	(2)-11	石のみ溝遺構	雨落溝か? 石灰の埋蔵物あり	第25・26回		
②-12	(2)-12	木製溝遺構	川・排水路? 木製の埋蔵物あり	第25・26回		
②-13	(2)-13	下坡				
③-14	(3)-14	下坡			第26回	
③-15	(3)-15	壁面	(2)～(7)と(2)～(11)の間の断面 (3)～(10)と同一			
③-16	(3)-16	壁面	瓦器・石器・骨器・木製品の軽便	第26回		
③-17	(3)-17	壁面	(3)～(11)より内側を剥むき	第26回		
③-18	(3)-18	下坡	柱穴跡? 小さな無土で深い			
③-19	(3)-19	下坡	柱穴跡? 小さな無土で深い			
③-20	(3)-20	下坡	柱穴跡? 小さな無土で深い			
③-21	(3)-21	下坡	柱穴跡? 小さな無土で深い			
③-22	(3)-22	下坡	柱穴跡? 小さな無土で深い			
③-23	(3)-23	下坡	柱穴跡? 小さな無土で深い			
③-24	(3)-24	下坡	柱穴跡? 小さな無土で深い			
③-25	(3)-25	石遺構	(3)～(11)に切られている 斧状の大型石材			
③-26	(3)-26	石遺構	(3)～(11)に切られている 斧状の大型石材			
③-27	(3)-27	石遺構	(3)～(28)と同一か?			
③-28	(3)-28	石遺構	(3)～(27)と同一か?			
③-29	(3)-29	石遺構	(3)～(27)、(3)～(28)と形状が異なり、(2)～(7)～(1)と同じ			
③-30	(3)-30	石遺構	(3)～(27)、(3)～(28)と形状が異なり、(2)～(7)～(1)と同じ			
③-31	(3)-31	石遺構	(3)～(10)と同一			
③-32	(3)-32	石遺構	(3)～(10)と同一			
③-33	(3)-33	石遺構	(3)～(10)と同一			
③-34	(3)-34	下坡	(3)～(10) 大型遺構の基礎か?			
③-35	(3)-35	下坡	(3)～(10) 大型遺構の基礎か?			
④-3	(4)-3	sondage	丸柱			
④-4	(4)-4	sondage	柱穴の植木 (前輪)			
④-24	(4)-24	下坡 (液状遺構)	(4)～(1)土坡と同・遺構 (4)～(25)種出土 墓土・炭化物が廃土	第28回		
④-25	(4)-25	sondage	底板半分のみ クガ残存	第28回		
④-1	(4)-1	下坡 (液状遺構)	(4)～(21)土坡と同・遺構 (4)～(25)種出土 墓土・炭化物が廃土	第28回		
④-2	(4)-2	下坡 (液状遺構)	石屑6～10枚 (3)～(30)により破壊されている	第28回		
④-3	(4)-3	sondage				
④-6	(4)-6	下坡 (液状遺構)	柱穴あり さらに西側にもう1基可能性あり 墓土は大型石材	第28回		
④-7	(4)-7	石のみ溝遺構	雨落溝か?			

第1表 検出遺構一覧表

第2節 検出遺構と出土遺物

1次遺構検出面 【遺構：第2図（P. 5）】【遺物：第11図～第13図（P. 13～15）】

①次面の主な遺構としては、コンクリート壁を含む性格不明な板組造構（①-1遺構）と、石やコンクリート碎片、または石灰ガラが詰まっていた溝状遺構（①-2～6）を確認した。内部からは陶器壺とボビン巻きの生糸が出土している。①次面の遺構は、出土遺物から昭和期の遺構と考えられる。ただし①-1遺構はコンクリート壁の構築が、それ以前に構築・利用されていた板組造構（地下室、ちかむろ）を再利用した可能性も考えられる。

2次遺構検出面 【遺構：第2, 4～6図（P. 5, 7～9）】【遺物：第14図～第18図（P. 16～20）】

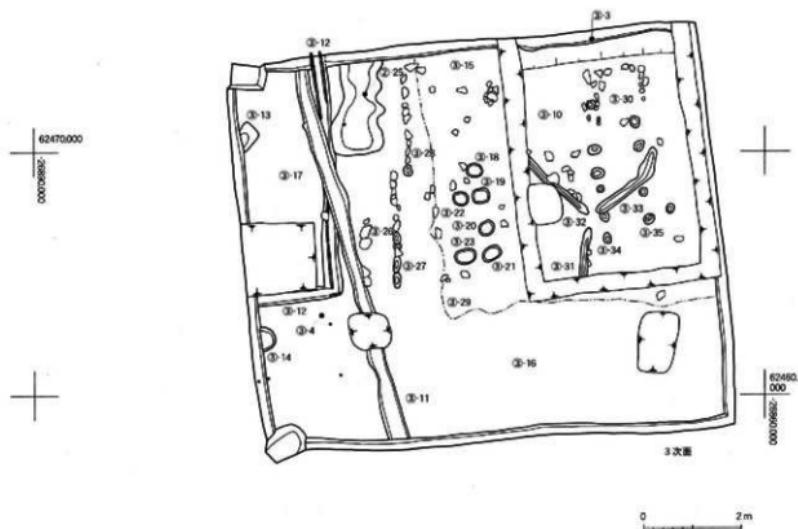
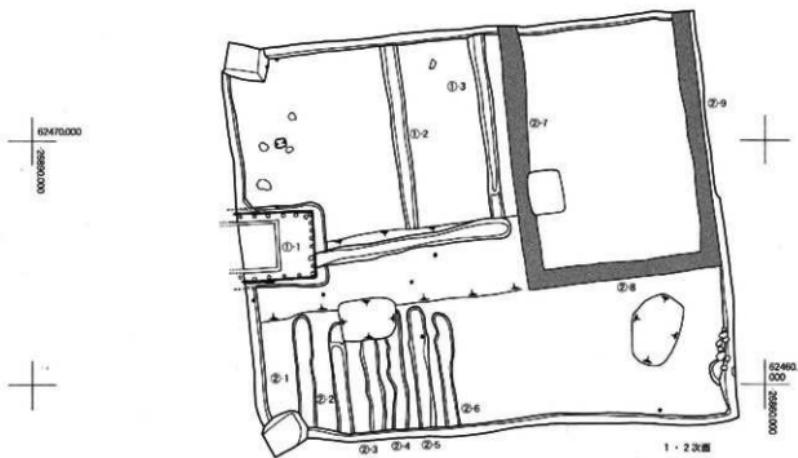
②次面では、石やレンガ片が詰まっていた暗渠状遺構（②-1～6）や、土蔵などの重量系建物の基礎と考えられる石積み造構が検出された。石積み造構は東西約8m、南北約12m（推定）の規模であり、30～50cm前後の石材を石垣状に積み上げている。残りの良い部分では3段積み上げられており、裏込めには礫石を充填していた。積石の下には松の丸太を2本並べて置き、耐木としている。丸太は直径約10～20cmで、屈曲部分は石の楔を打ち込んで矯正した痕跡が認められる。堅杭は施していない。

3次検出遺構面 【遺構：第2, 7, 8図（P. 5, 10, 11）】【遺物：第19図～第27図（P. 21～29）】

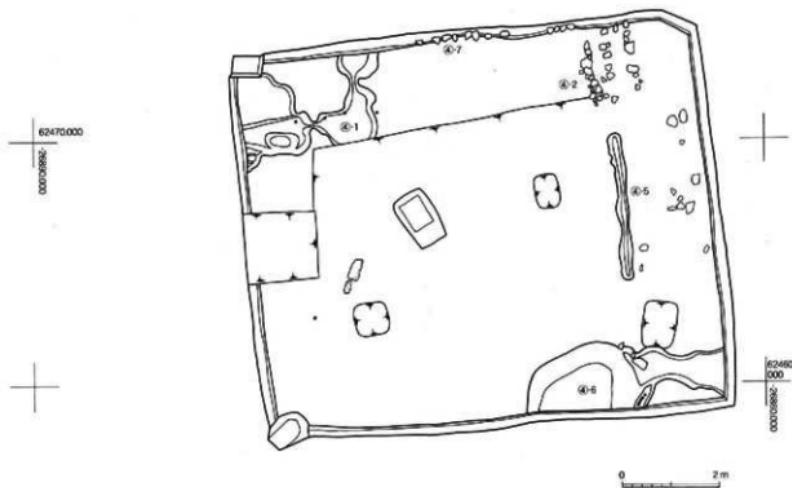
②-7～9遺構に開闢された範囲には明瞭な焼土層の堆積があり、③次面として設定した。遺物の混入量も多く、火災後の整地層と考えられる。焼土層下面の被熱面において礫石と柱穴を検出した。これらはほぼ90cmの間隔で配されており、何らかの建物遺構と考えられる。調査区の北東側に規則的に配され、石列などを伴っている。建物の規模や構造については不明だが、位置関係からおそらく武家屋敷の母屋に一部となる可能性が考えられる。調査区西側では石組み溝造構（③-11）と木組み溝造構（③-12）が検出された。石組み溝造構は10～20cm程度の小型石材を2列溝状に並べ、板石状の石材で蓋を架構していた部分も残存していた。規模・構造的には雨落ち溝としての性格が妥当と考えられるが、流路の軸が建物とは合致せず斜めとなっていることや、現存する絵図史料から、泉水路としての性格も考えるべきであろう。③-12は板状の木材を2本並列に配し、同じく木蓋を架構しているものである。底板がないことからも排水施設としての機能が考えられるが、埋土に多量の瓦片が詰められていたことから廃絶時には暗渠化された可能性も考えられる。③-11に切られ、ほぼ直角に曲がり①-1に切られている。また地中に埋められたと考えられる桶が2個体出土した。③-3は丸桶で中から赤漆塗りの箸が出土した。③-4は梢円形の桶で底部のみの残存である。

4次遺構検出面 【遺構：第3, 9, 10図（P. 6, 12）】【遺物：第28図（P. 30）】

現地表下約150cmに設定した④次面では、2箇所で池状遺構と考えられる土坑（④-1・6）が検出された。それぞれ護岸に枕列を伴っている。また④-1遺構には上層の焼土が落ち込んでおり、丸桶の底部（④-25）が出土している。



第2図 1・2次面・3次面造構全体図 (S=1/200)



第3図 4次面造構全体図 ($S=1/200$)



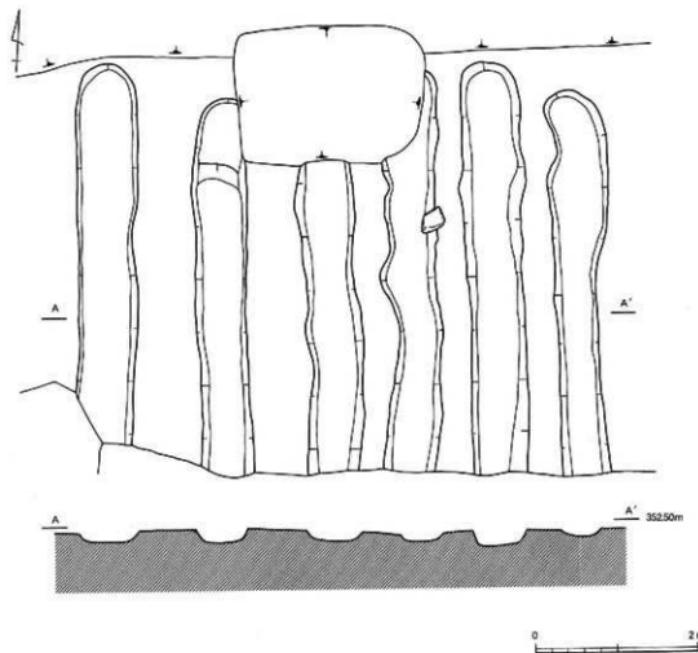
1・2次面



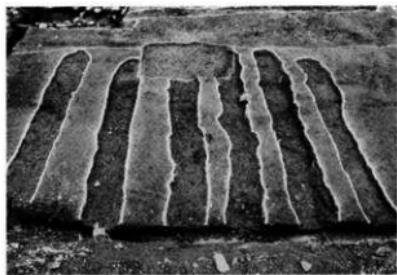
4次面



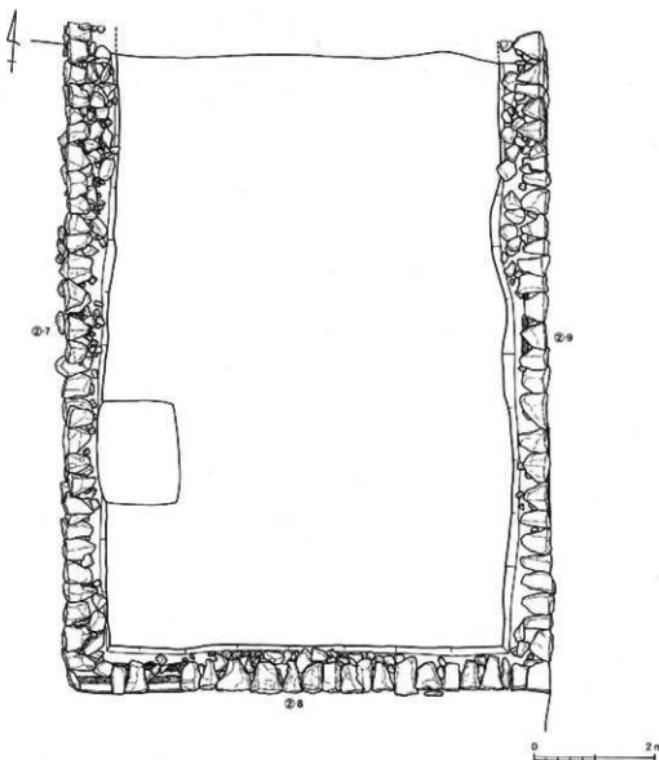
3次面



第4図 2次面1～6号遺構実測図 ($S=1/60$)



2次面1～6号遺構



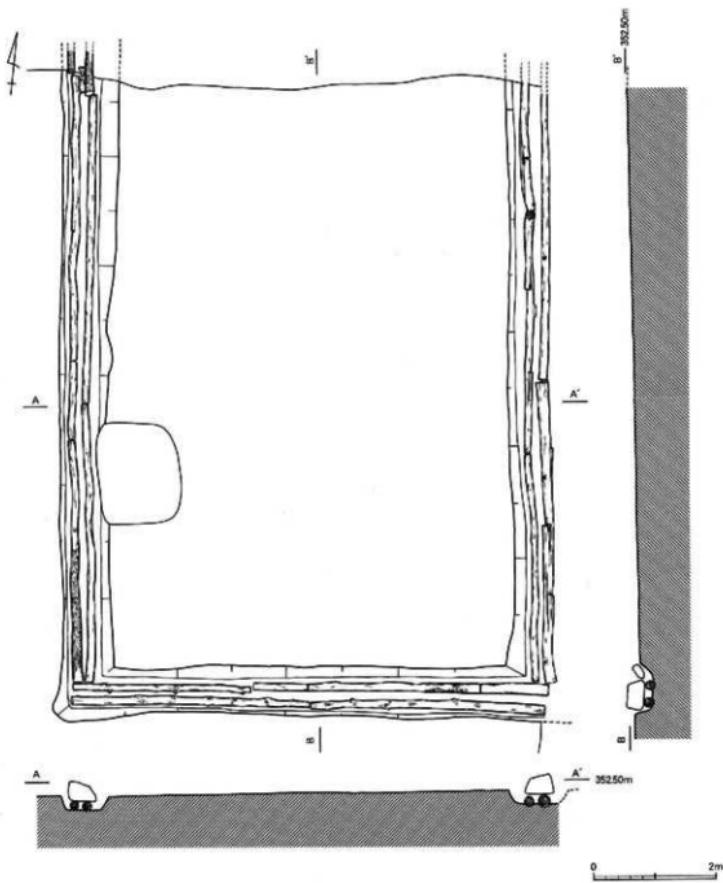
第5図 2次面7～9号遺構 (S=1/80)



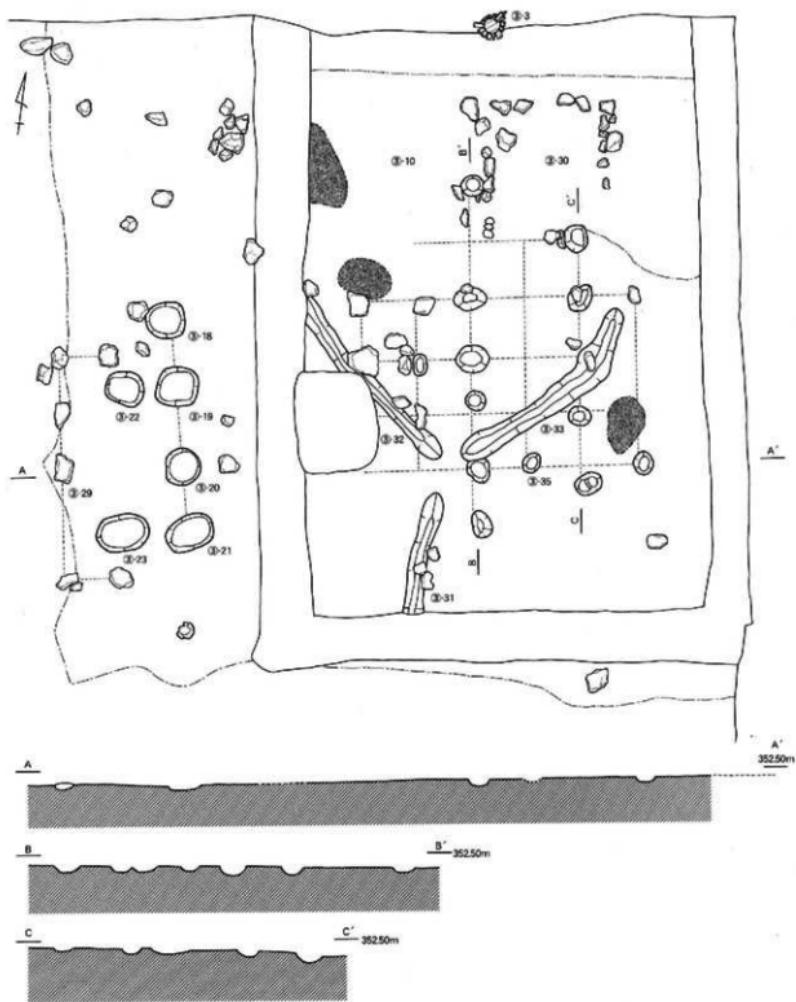
2次面7～9号遺構(石積)



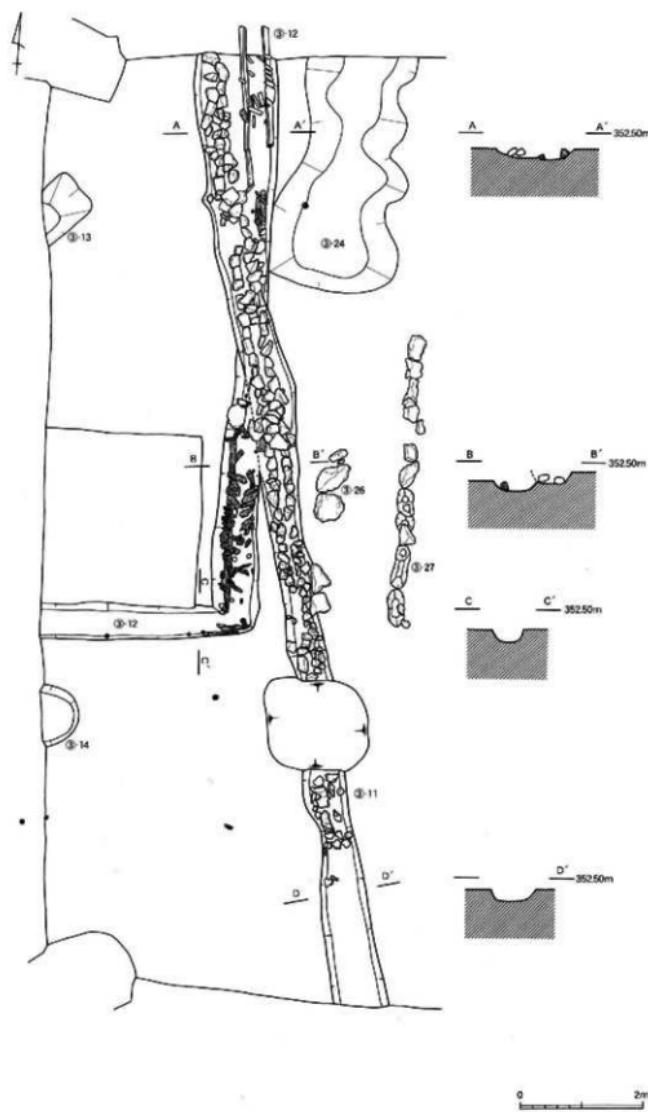
2次面7～9号遺構(石積撤去)



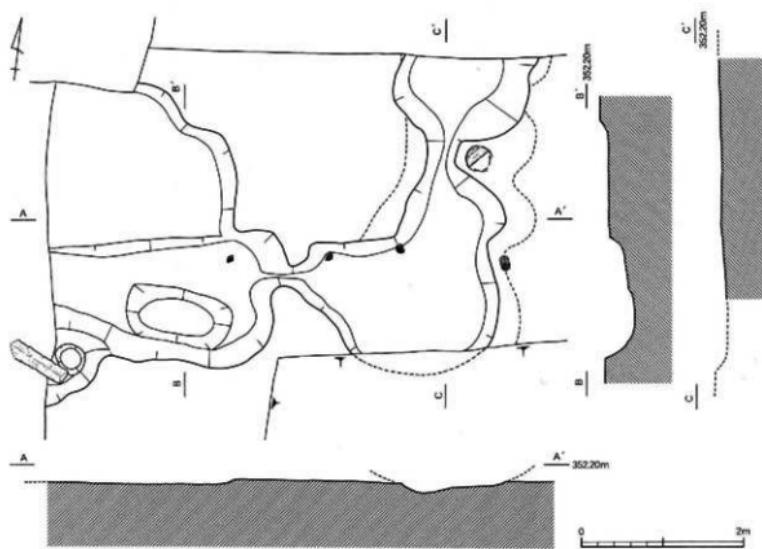
第6図 2次面7～9号遺構石積み下層樹木 (S=1/80)



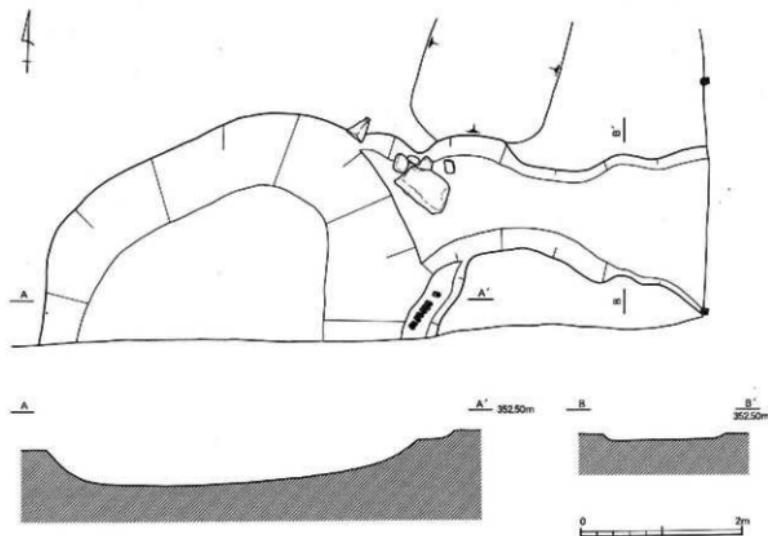
第7図 3次面10・18~23・29~35号遺構



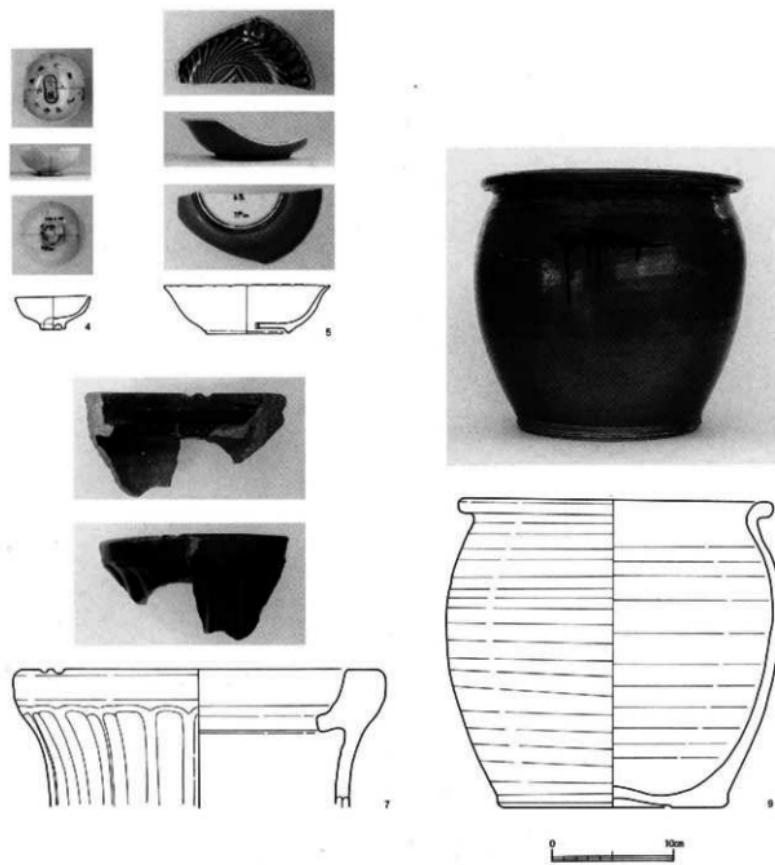
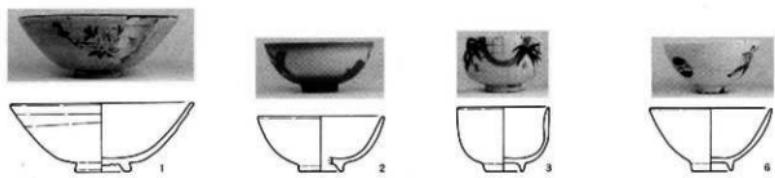
第8図 3次面11・12号遺構 ($S=1/80$)



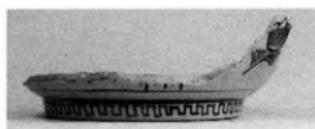
第9図 4次面11号造構 ($S = 1/60$)



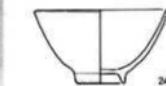
第10図 4次面6号造構 ($S = 1/60$)



第11図 1次面1号遺構出土陶磁器 (S=1/4)



0 10cm



24



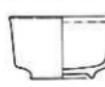
10



11



12



13



14



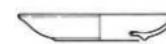
15



16



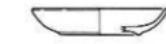
17



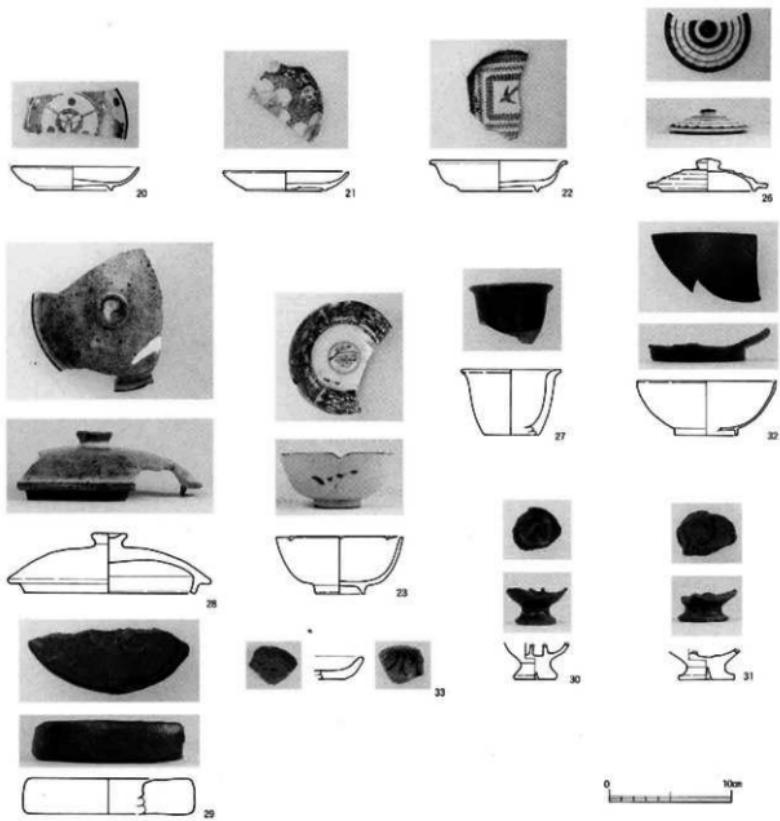
18



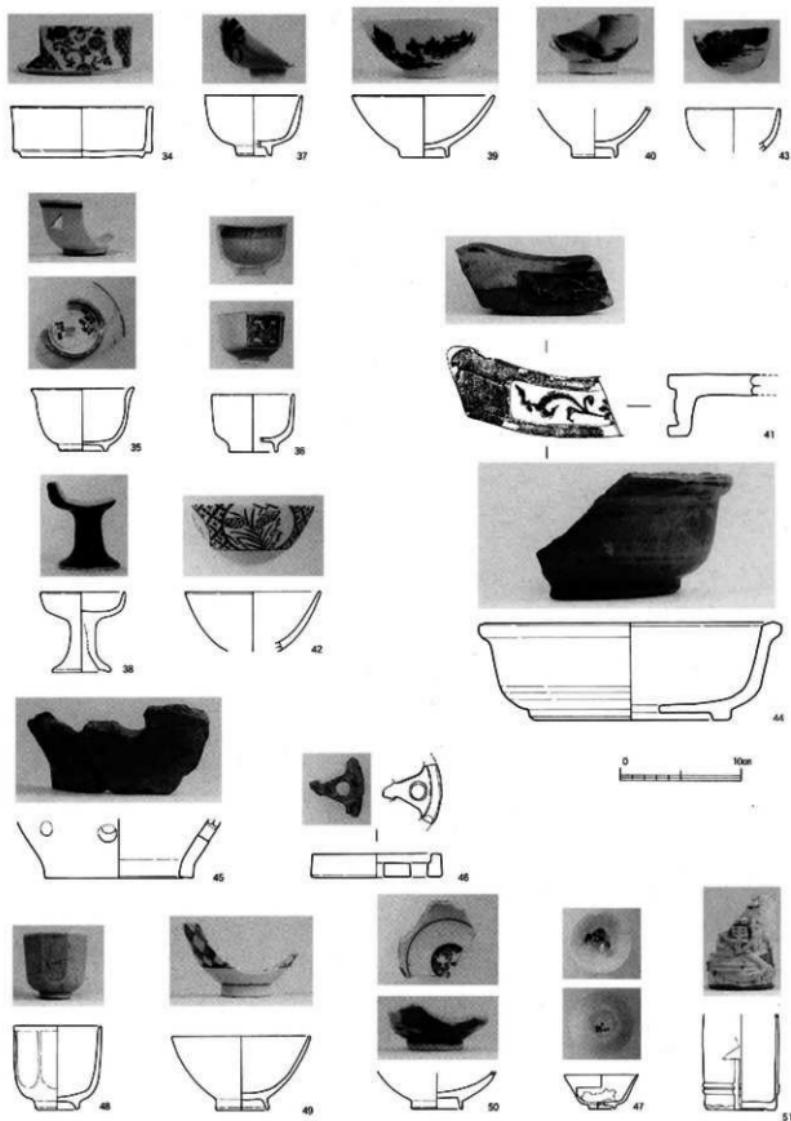
19



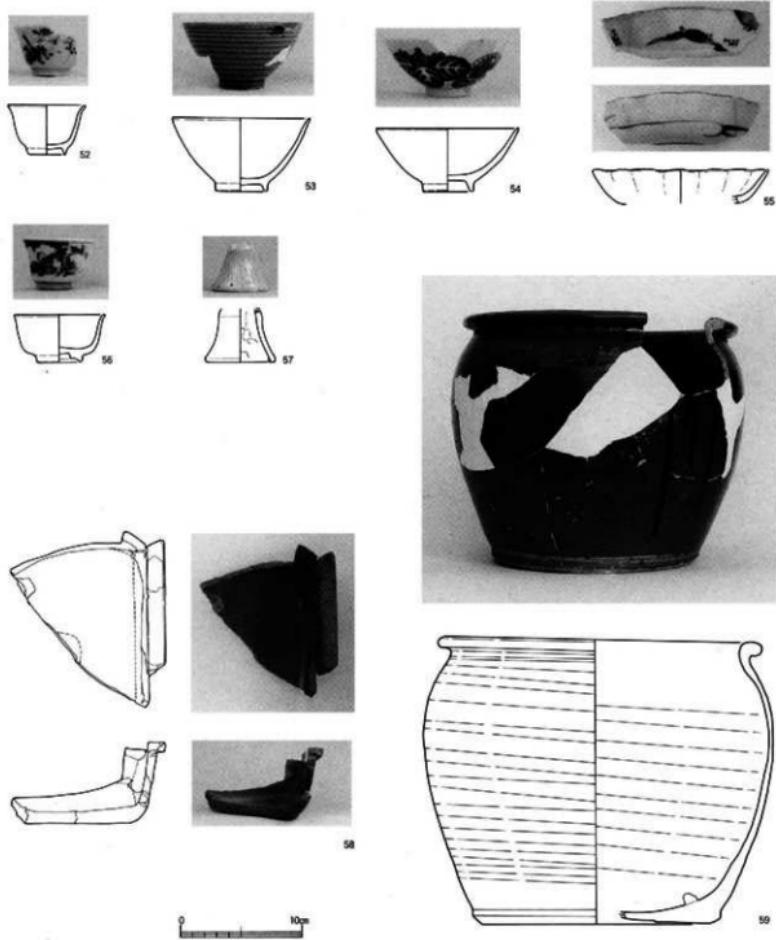
第12圖 1次而1・3号遺構・1次而出土陶磁器 (S=1/4)



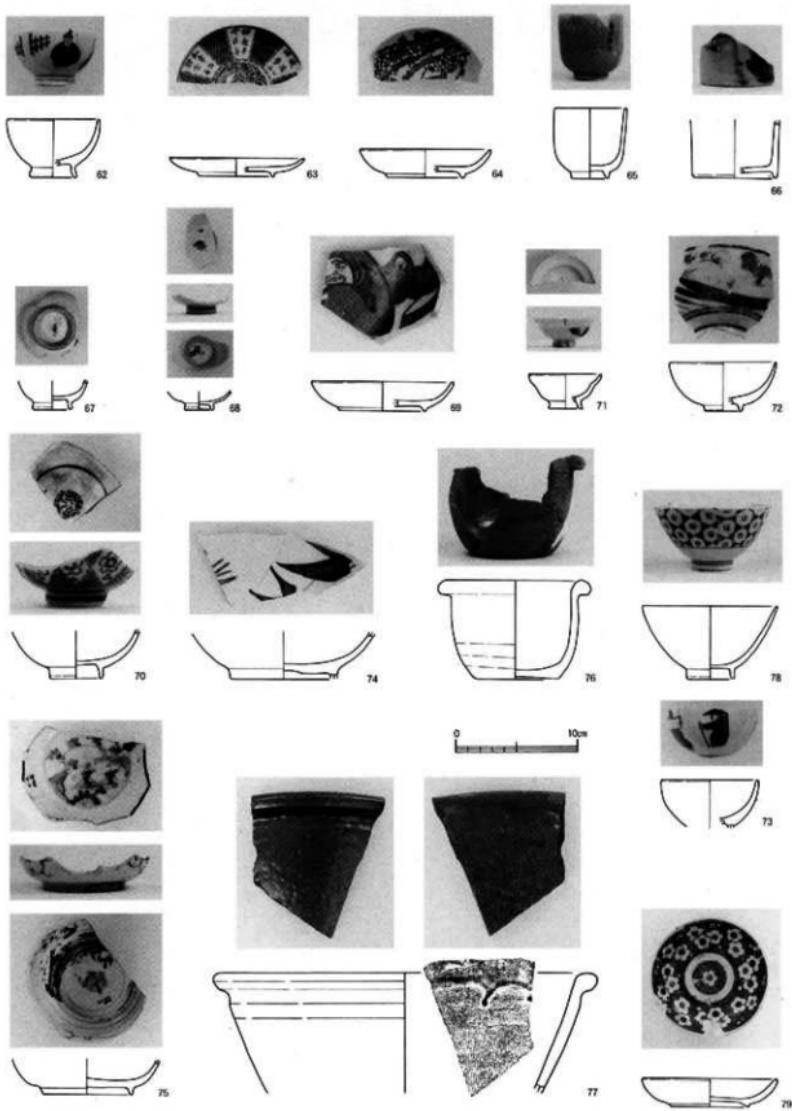
第13圖 1次面出土陶磁器・土器 (S = 1/4)



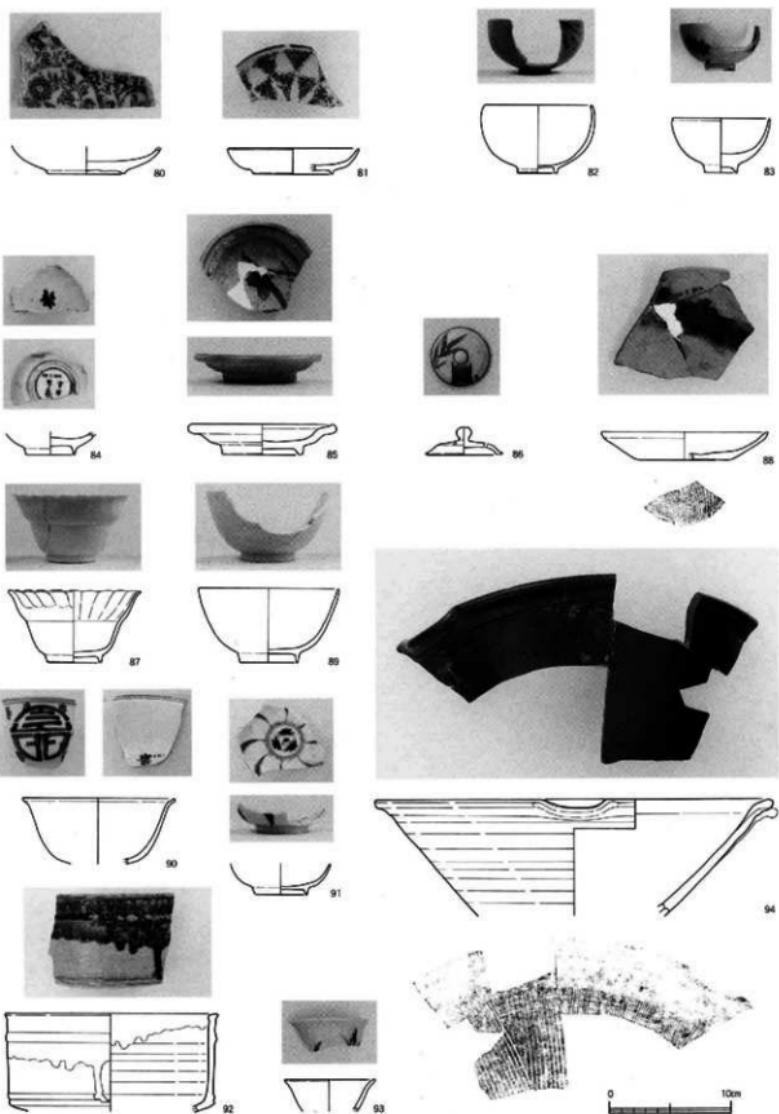
第14図 2次面1・2・3号遺構出土陶磁器・土器・瓦 (S=1/4)



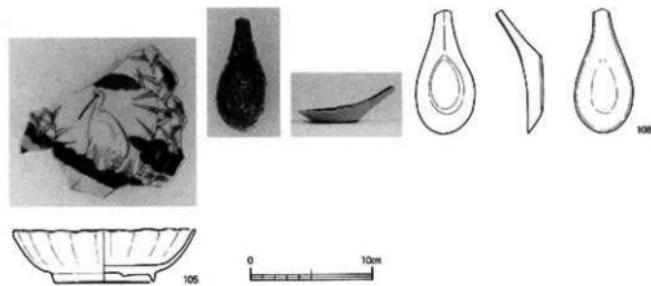
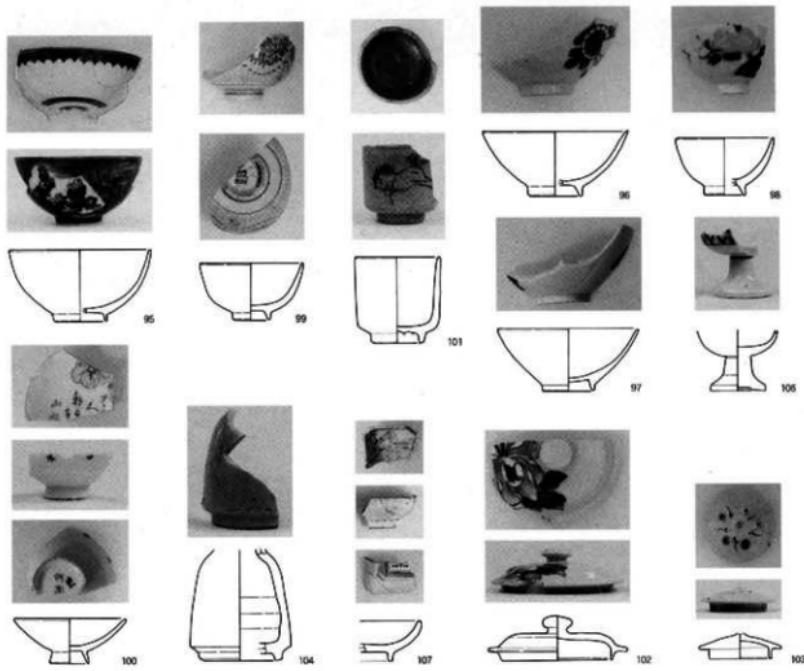
第15図 2次面4・5・6号遺構出土陶磁器 ($S=1/4$)



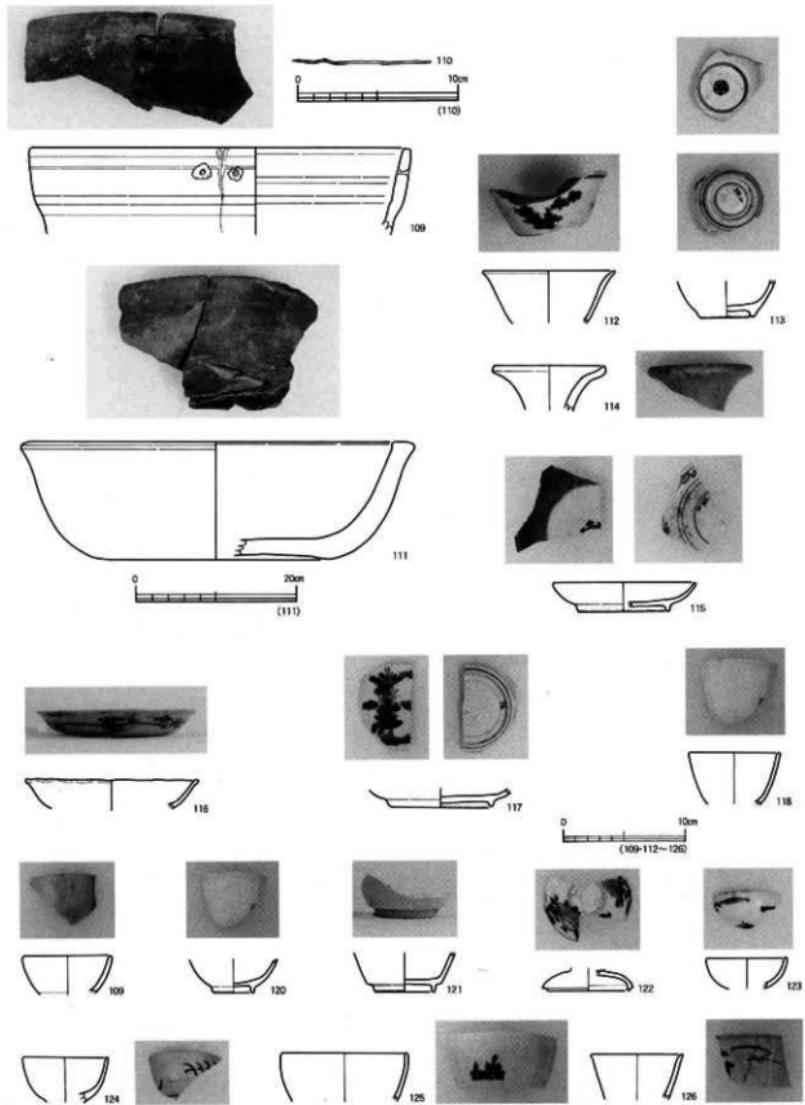
第16図 2次面6号遺構出土陶磁器 ($S=1/4$)



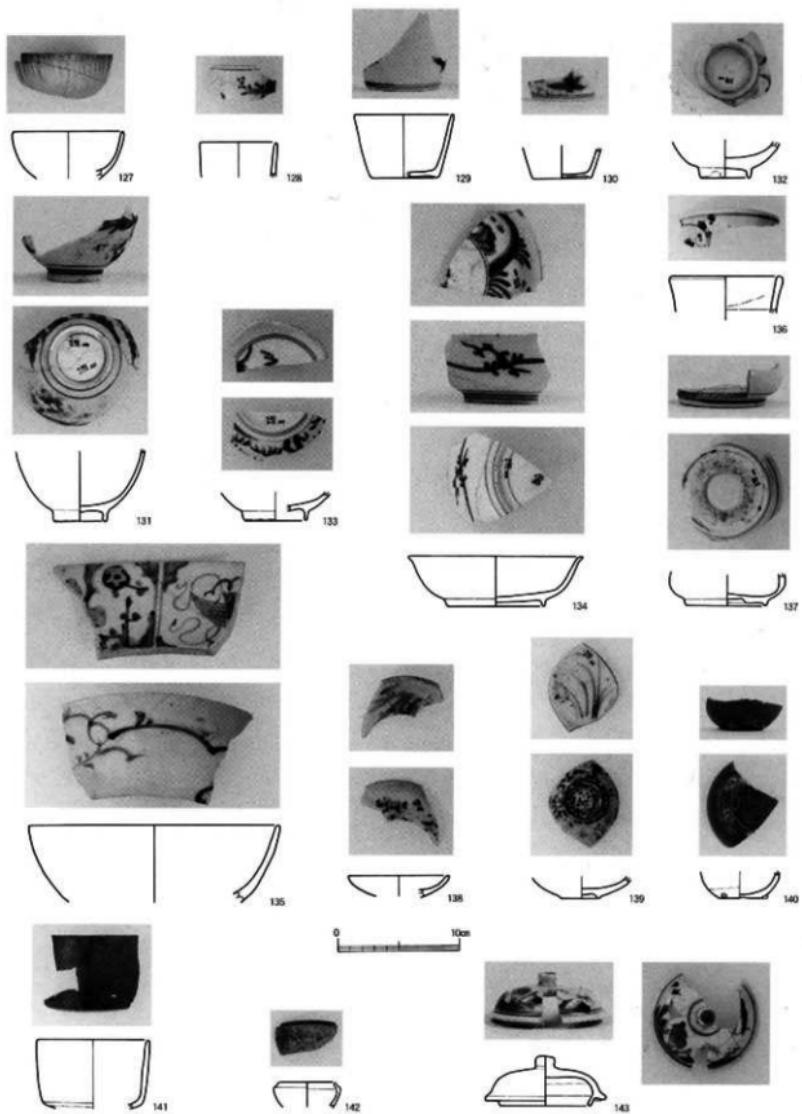
第17図 2次面7・9号遺構・2次面出土陶磁器、土器 (S=1/4)



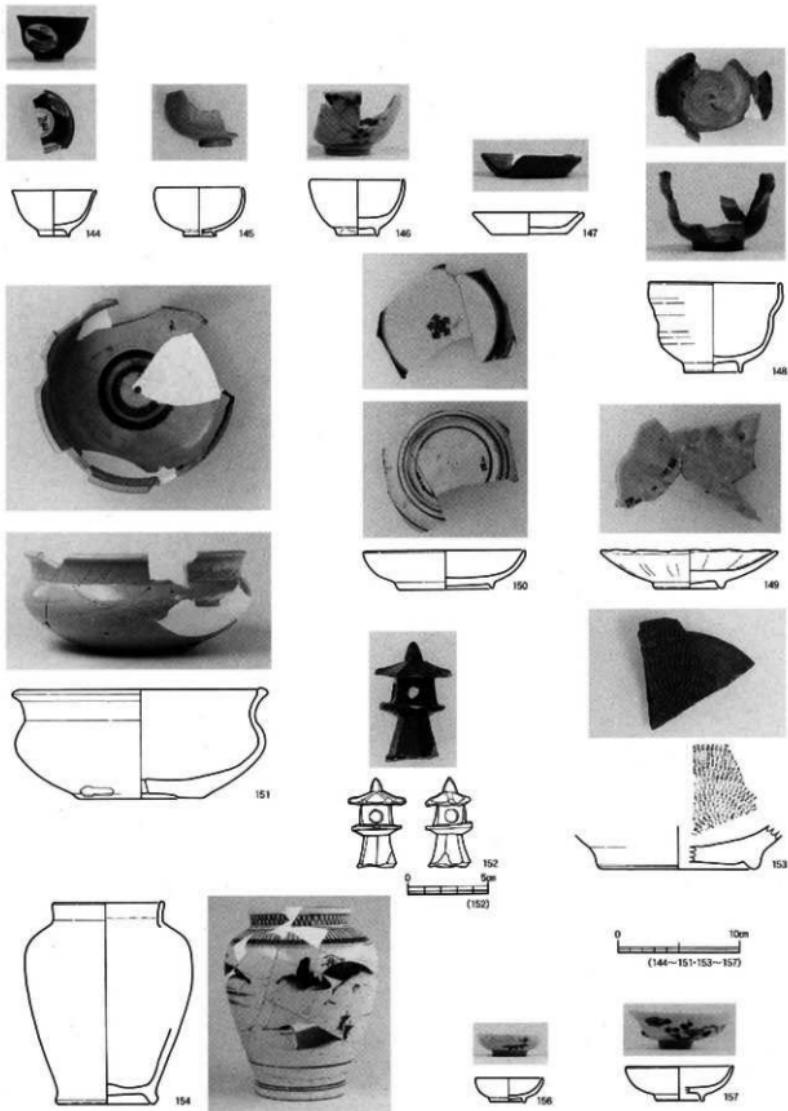
第18図 2次出土陶磁器 ($S = 1/4$)



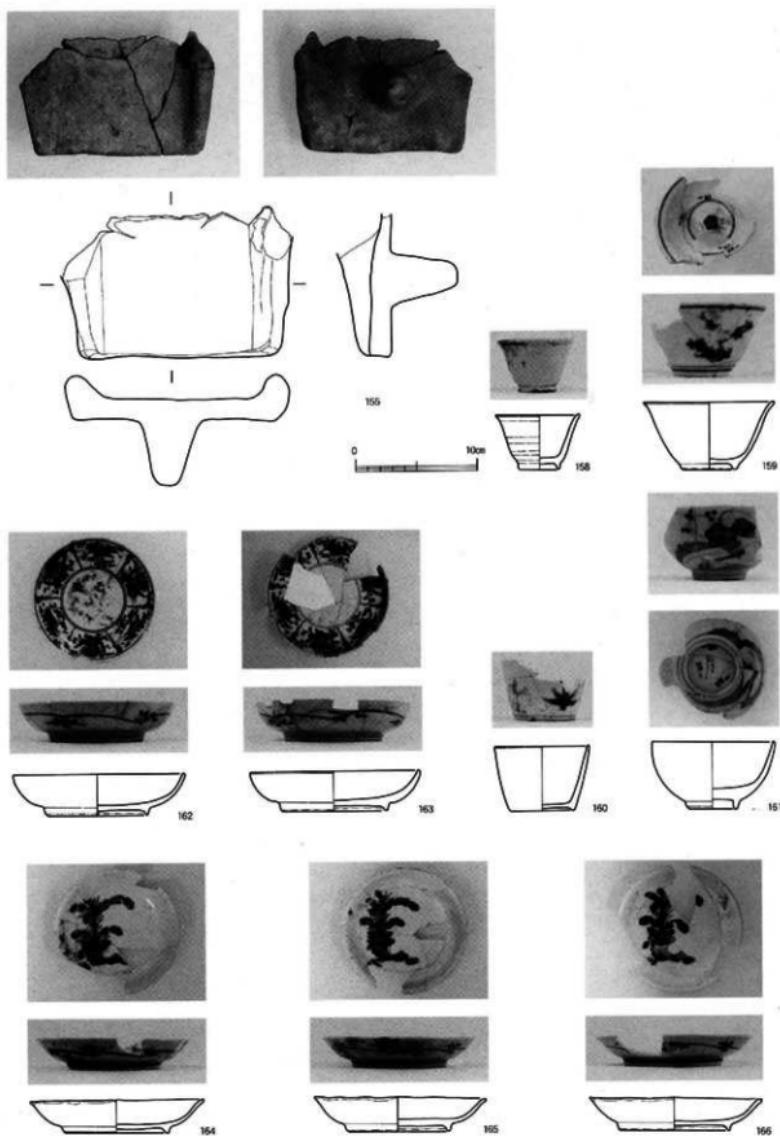
第19図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器 ($S=1/3 \cdot 1/4 \cdot 1/6$)



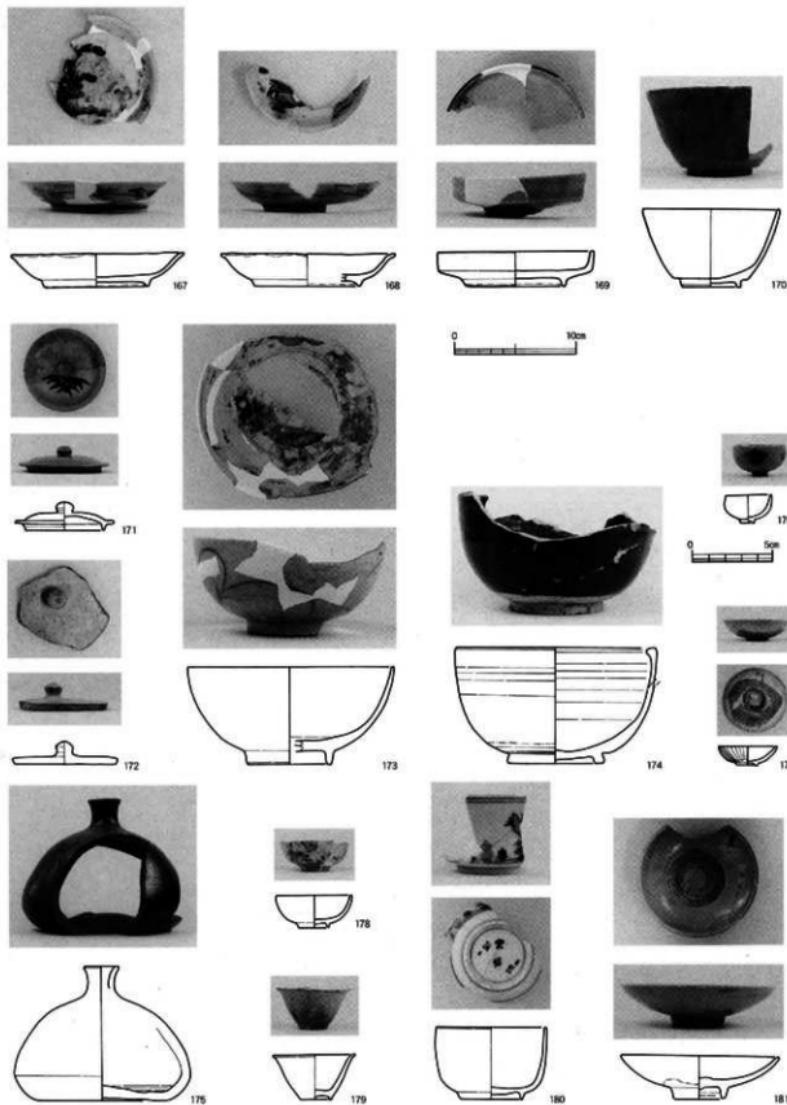
第20図 3次面10号造構出土陶磁器 (S=1/4)



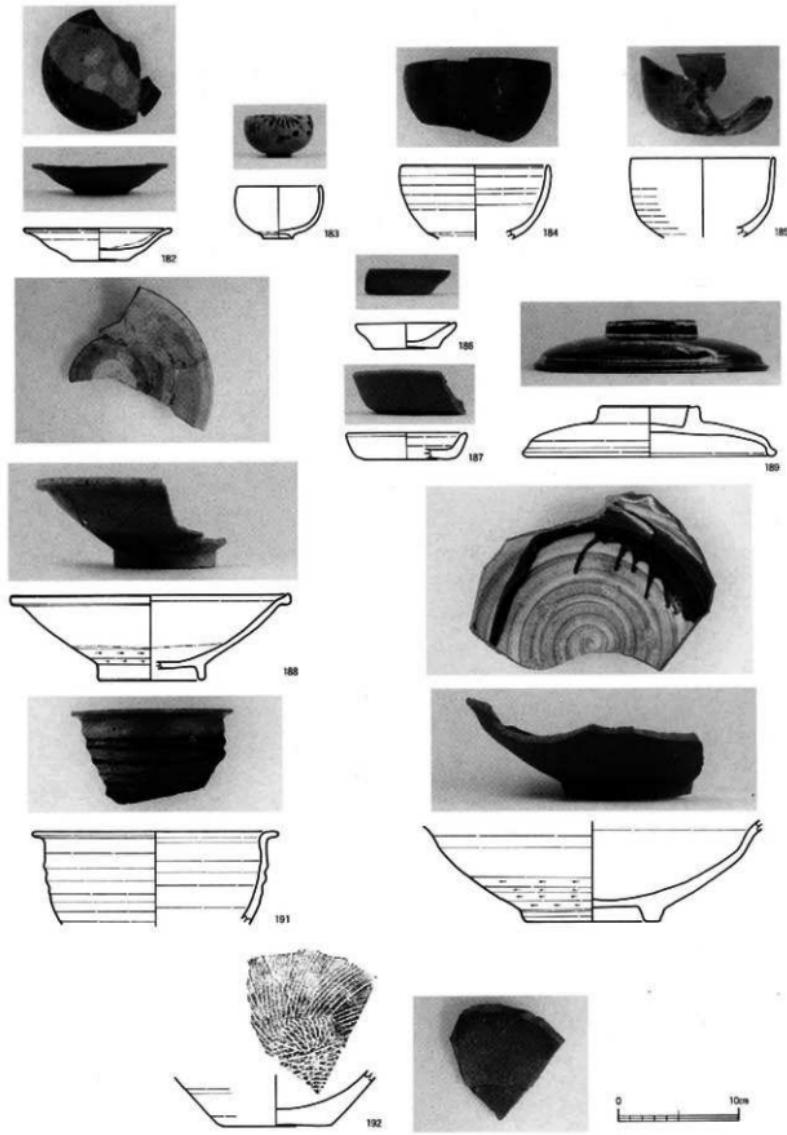
第21図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器・土製品 (S=1/3・1/4)



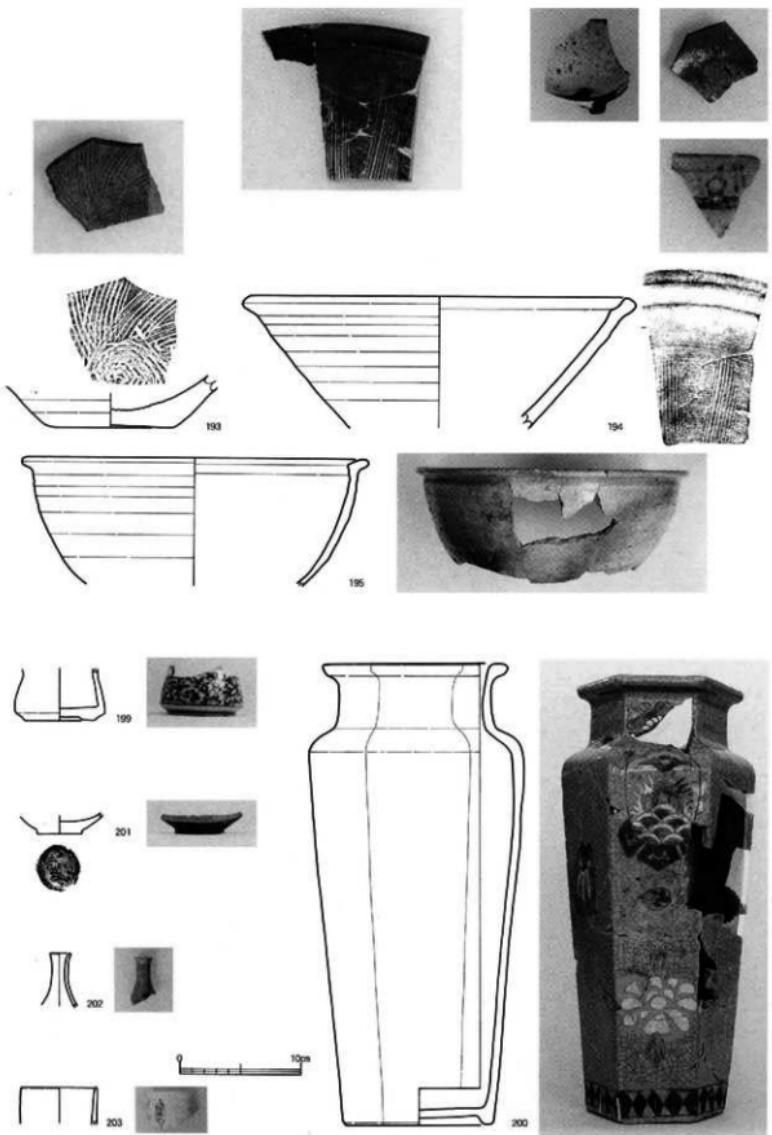
第22図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器 ($S=1/4$)



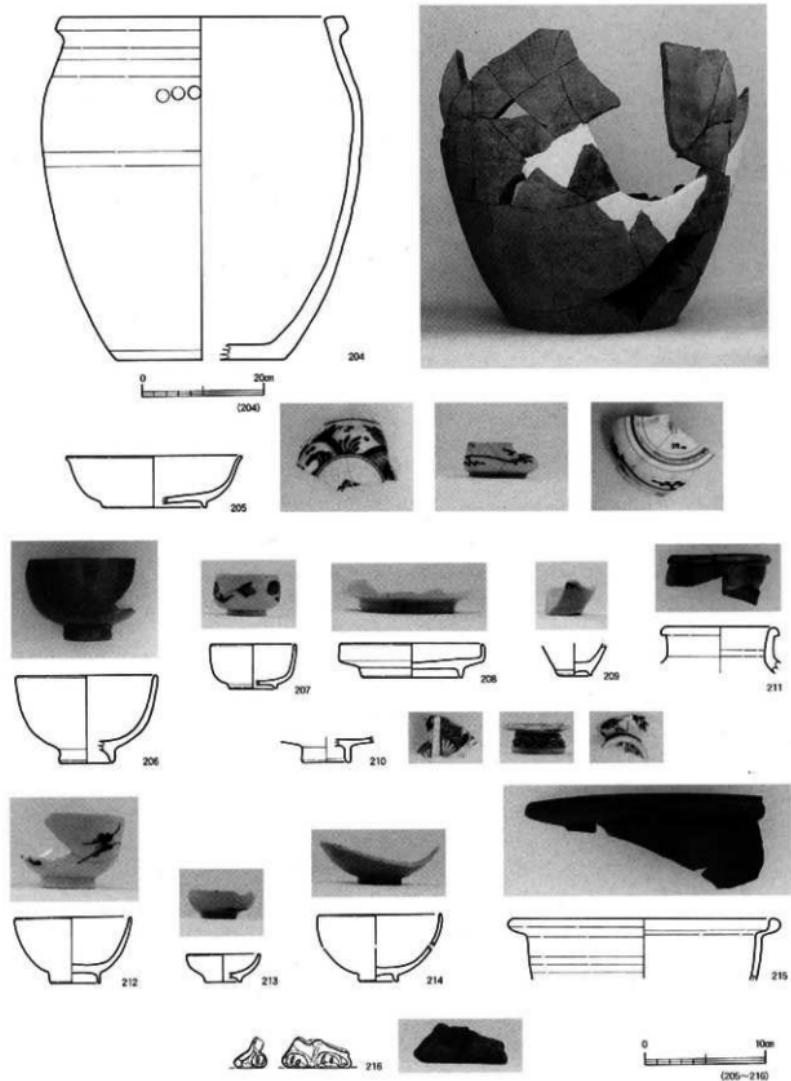
第23図 3次面10号遺構出土陶磁器 ($S=1/4$)



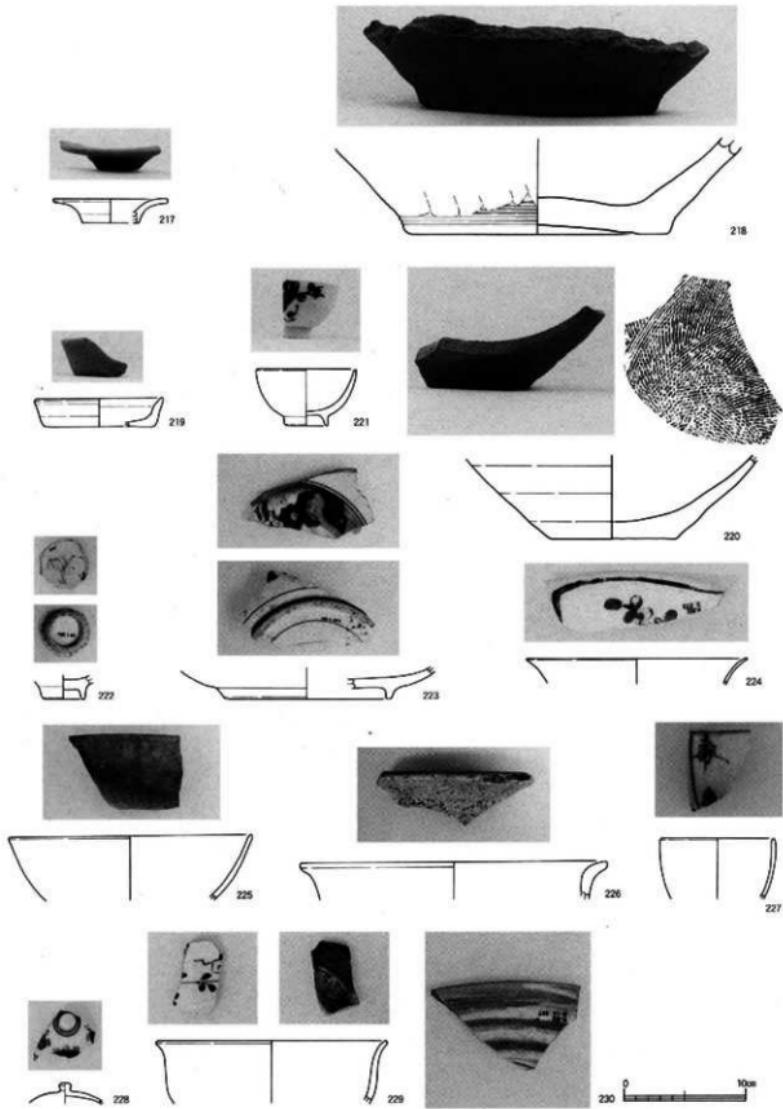
第24図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器 (S=1/4)



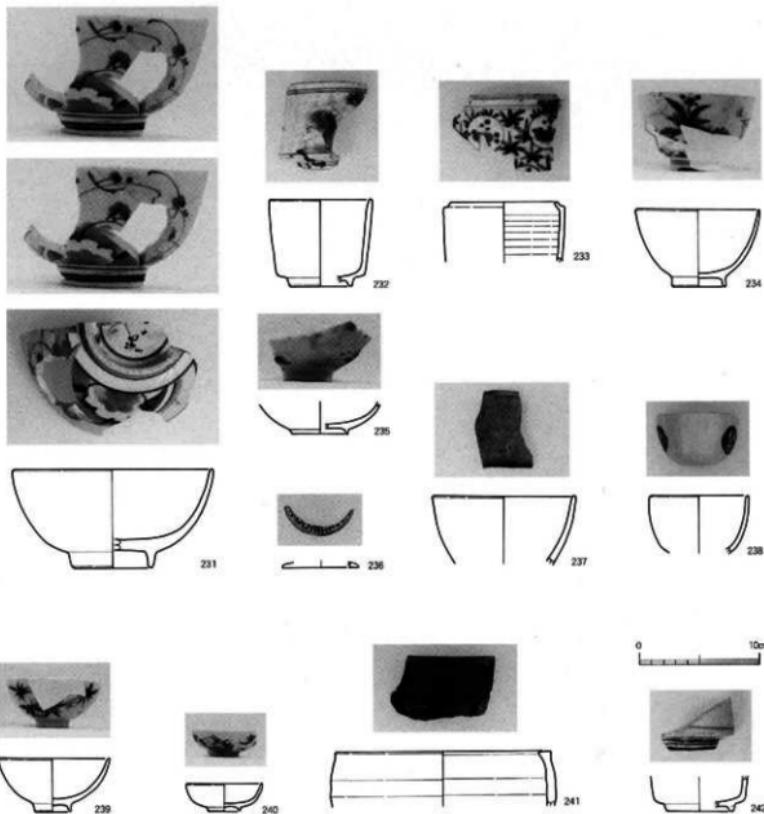
第25図 3次面10・11号造構出土陶磁器・土器 (S=1/4)



第26図 3次面11・14・16・17号遺構出土陶磁器・土製品 ($S = 1/4 \cdot 1/8$)



第27図 3次面20・23号遺構出土陶磁器・土製品 ($S=1/4$)



第28图 4次面1・2・6・24号遗構出土陶磁器 (S=1/4)

松代城下町跡（M J82）出土陶磁器観察表（1）

番号 順番	出土地点 測量面	縦剖 断面	横剖 断面	器種 分類	残存率 全・体	表面 外観	調査・文書・その他の 内観見所			備考 指定地・年代
							内面	裏面	その他	
1	1次面	1号遺構	1	2	平丸瓶	90%	輪花文	口桟・直張耳	-	高台内剥印あり・底部 直巻状 近・現代
2	1次面	1号遺構	1	3	平丸瓶	40%	金魚・水草・露付のみ	-	-	吹瓶 現代
3	1次面	1号遺構	1	3	圓盤碗	60%	新・梅・恋切(朱付)	-	-	コバルト 底部直巻状
4	1次面	1号遺構	1	3	盃	80%	-	口採縫部・金	文字あり「無縫開黒 大岩窯店」	
5	1次面	1号遺構	1	3	皿	40%	菊花文	-	-	幾何学文・高台内文 字・・・書
6	1次面	1号遺構	1	3	瓶	95%	文字あり「ホーリン」	-	-	子供用 現代
7	1次面	1号遺構	1	2	火鉢?	-	貞物	-	-	和代系
8	1次面	1号遺構	1	3	鉢	-	牡丹文・区文・雲文	-	-	コバルト・軸の日本形 高台・高台内文字あり 江戸後期~ 西朝(8世紀)
9	1次面	1号遺構	1	2	壺(丸底)	80%	直輪・灰輪波立	吹筒	-	黒釉
10	1次面	1号遺構	1	3	向付?	20%	-	-	-	黒釉・美濃系
11	1次面	板出面	1	3	丸形瓶	95%	山文(人物・鶴・草)	-	-	高台内剥印あり「吉山」
12	1次面	板出面	1	3	丸形瓶	95%	松葉文・口脚部一重圓	-	-	型紙模・コバルト・高台 内文字・駿河?
13	1次面	板出面	1	3	丸形瓶	70%	支・草花・月・茶・高	-	-	高台・直巻蓋・模版模 写
14	1次面	板出面	1	3	碗?	90%	桃	-	-	高台・直巻蓋
15	1次面	板出面	1	3	盃	80%	竹・口脚部一重圓線・高 台脚一重圓線	竹・口脚部	-	
16	1次面	板出面	1	3	盃	30%	-	吹筒	-	型紙模・コバルト
17	1次面	板出面	1	3	皿	50%	-	-	-	型紙模
18	1次面	板出面	1	3	皿	30%	井葉	-	-	口虹装飾・吹製模写
19	1次面	板出面	1	3	皿	25%	-	口脚部一重圓	風呂文(水草・小田・縁)	
20	1次面	板出面	1	3	皿	20%	-	-	-	型紙模
21	1次面	板出面	1	3	皿	40%	-	花文	花文	調査軸等
22	1次面	板出面	1	3	皿	40%	刻文(透)	動物文(透)	明治?	調査軸等
23	1次面	板出面	1	3	皿	20%	葉	透葉(透・文字あり)透	輪花・コバルト	明治?
24	1次面	板出面	1	3	人形瓶	60%	-	-	-	型紙模・コバルト
25	1次面	板出面	1	2	人形瓶?	60%	-	-	-	ロクロ風影・灰地
26	1次面	板出面	1	3	瓶	60%	-	-	-	空打ち風影・コバルト
27	1次面	板出面	1	2	木目形小瓶	30%	-	-	-	在地系
28	1次面	板出面	1	2	盃	50%	-	-	-	松代系
29	1次面	板出面	1	2	不規	30%	-	-	-	當り在地系・江戸後期~
30	1次面	板出面	1	2	束縛	60%	-	-	-	明治?
31	1次面	板出面	1	2	束縛	50%	-	-	-	谷村さんごろ窯・在地系
32	1次面	板出面	1	2	桶	30%	-	-	-	機成及津洋布
33	1次面	板出面	1	2	皿	-	-	-	手びねり	肥前系・美濃系・江戸後 期?
34	2次面	1号遺構	1	4	段垂	35%	葉筋透・菊文(透)・花文 (透)	-	-	明治?
35	2次面	1号遺構	1	3	湯沸鍋	30%	口脚部一重圓	-	-	高台内文字あり「駿河」
36	2次面	1号遺構	1	3	湯沸鍋	20%	葉文・透葉・透文支・土文	口脚部彫文	-	現代
37	2次面	1号遺構	1	3	湯沸鍋	60%	透文・透葉	-	-	美濃口脚
38	2次面	1号遺構	1	3	口脚部	60%	透	透明釉	-	高台・美濃系
39	2次面	1号遺構	1	3	手洗瓶	90%	透筋文	-	-	コバルト・無底缸写
40	2次面	1号遺構	1	3	手洗瓶	90%	透	-	-	コバルト・吹模
41	2次面	1号遺構	1	5	軒平瓦	-	透文	-	-	文字あり「上??」
42	2次面	1号遺構	1	3	平丸瓶	40%	輪花文・丸の内に支 足・花	-	-	-
43	2次面	1号遺構	1	3	油酰瓶	25%	コバルト・脚輪モザイク	苔	-	明治~
44	2次面	2号遺構	1	2	粗木瓶	25%	-	-	-	-
45	2次面	3号遺構	1	2	不明(火器?)	-	ケニア・薬用香	-	-	烈船
46	2次面	3号遺構	1	2	日?	16%	-	-	-	烈船
47	2次面	3号遺構	1	3	盃	95%	輪牛文	-	-	底部穿孔(成形時)
48	2次面	3号遺構	1	3	扇形瓶	70%	移植形容文	-	-	高以・美濃系・江戸口脚
49	2次面	3号遺構	1	3	平丸瓶	20%	白松文様・高台脚一重 圓	-	-	明治?
50	2次面	3号遺構	1	3	平丸瓶	15%	些省文	-	-	コバルト・型紙模
51	2次面	3号遺構	1	3	他有	-	眞・眞・眞	烈船・淡成及彦舟(透)	-	烈船・淡成及彦舟(透)
52	2次面	4号遺構	1	4	盃	60%	菊花文	-	-	型打成器
53	2次面	5号遺構	1	3	平丸瓶	70%	烈脚模印(10本)	-	-	色絵(緑・墨)
54	2次面	5号遺構	1	4	丸底瓶	60%	-	-	-	色絵(緑・墨)
55	2次面	5号遺構	1	3	なま手盤	20%	口輪型輪舟・口經筋舟 (苔)唐草文	山水文	-	烈船
56	2次面	5号遺構	1	3	湯沸鍋	45%	青花・人物・脚輪一部 ・輪脚・高台脚一重圓	-	-	コバルト・調査軸等・此 の品(明治)
57	2次面	5号遺構	1	3	水滴?	-	竹形・青磁釉	指ナラ・烈船	-	烈船・美濃系
58	2次面	5号遺構	1	2	粗油瓶	-	-	-	-	在地系
59	2次面	板出面	1	2	妻(別丸形)	60%	脚輪・灰輪波立	烈船	-	日絵あり(カケ所・烈 船模み)
60	2次面	6号遺構	1	3	平丸形瓶	30%	草葉文	-	-	コバルト・調査軸等・此 の品(明治)
61	2次面	6号遺構	1	3	盃	20%	花文	-	-	烈船・美濃系
62	2次面	6号遺構	1	3	丸形瓶	20%	人物・川形	-	-	烈船・美濃系
63	2次面	6号遺構	1	3	皿	40%	-	-	-	烈瓶
64	2次面	6号遺構	1	3	皿	20%	-	傳文	-	烈船

松代城下町跡（M J 82）出土陶磁器観察表（3）

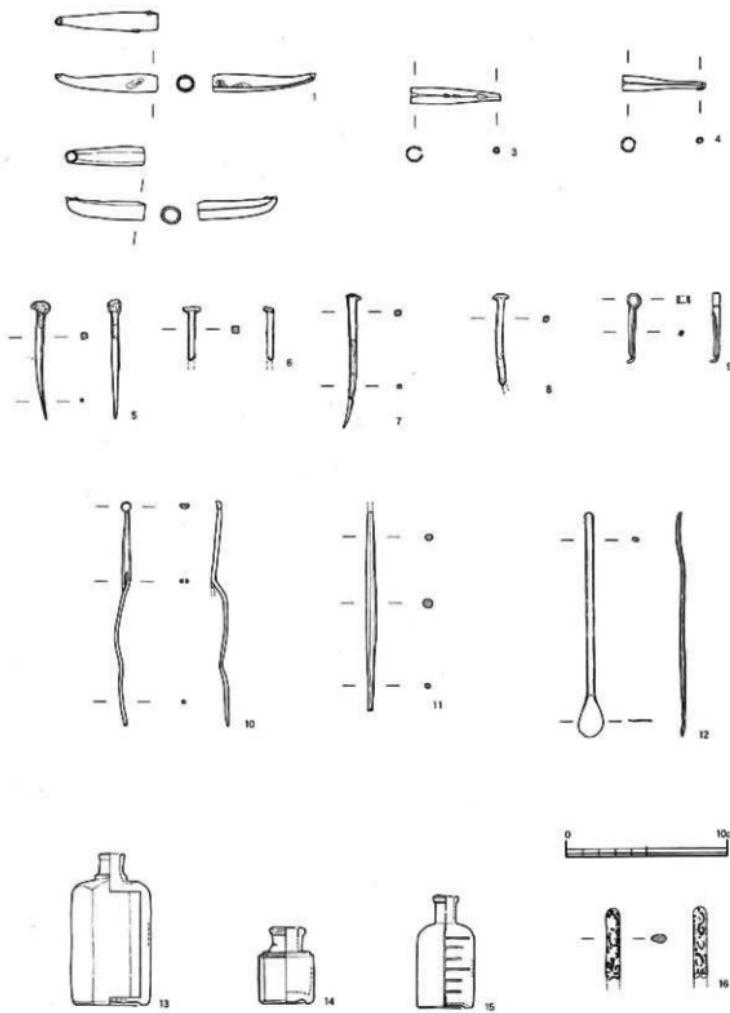
団体 番号	出土地点 地名	施設名	種別 別別	詳細 形・体	調査・文書			その他 見込	備考 確定地・年代
					横谷 内 面	内 部	その他の 見込		
120	3次面	10号遺構	1	3 丸形瓶	瓶口	20% 柄文・口縁部・底無	-	-	帆船 舟曳絆
121	3次面	10号遺構	1	3 丸形瓶	30%	草花文	-	-	帆船・高台内二重圓錐
122	3次面	10号遺構	1	3 丸形瓶	-	草花文	-	-	帆船・高台内二重圓錐
123	3次面	10号遺構	1	3 丸形瓶	15%	草花文	-	-	帆船・高台内二重圓錐
124	3次面	10号遺構	1	3 丸形瓶	13%	草花文	-	-	帆船・高台内二重圓錐
125	3次面	10号遺構	1	3 丸形瓶	13%	草花文	透文	五弁花文	帆船・高台内富貴長春
126	3次面	10号遺構	1	3 丸形瓶	20%	草花文	風雲文	-	帆船
127	3次面	10号遺構	1	3 丸形瓶	-	唐草文・口縁部・底無	無輪	-	帆船とL?
128	3次面	10号遺構	1	3 丸形瓶	-	唐草文・口縁部・底無	無輪	-	帆船・蛇の目円形尚台
129	3次面	10号遺構	1	3 丸形瓶	15%	器面凹凸	草文	-	帆船
140	3次面	10号遺構	1	2 小瓶?	17%	帆船・櫻下葉模・三足?	-	-	帆船・底部保付着
141	3次面	10号遺構	1	2 小瓶?	20%	帆船	-	-	高台下無輪
142	3次面	10号遺構	1	2 合子	18%	-	-	-	帆船?
143	3次面	10号遺構	1	3 瓶	75%	山水画・二重圓錐	-	-	山水画
144	3次面	10号遺構	1	4 瓶	35%	風雲文	-	-	色絵・高台裏装あり
145	3次面	10号遺構	1	3 丸形瓶	25%	-	-	-	帆船・風雲文
146	3次面	10号遺構	1	3 丸形瓶	30%	草花文	-	-	帆船・高台内二重圓錐
147	3次面	10号遺構	1	1 盆	60%	-	-	-	カワラケ
148	3次面	10号遺構	1	2 丸形瓶	35%	透明釉に帆船(白黄色)	透け	-	京焼系・網治~
149	3次面	10号遺構	1	3 皿	20%	-	-	ハリ貝2ヶ所	青磁船・口縁部輪花
150	3次面	10号遺構	1	3 皿	60%	-	五弁花文	-	帆船・高台内二重圓錐
151	3次面	10号遺構	1	3 香炉	60%	二重山形文・二重邊張	-	成の目輪切手・高台掌 孔(帆船後)・根本跡と して使用か	青磁船・蛇の目円形尚台・ 足跡3つ? 中国系?
152	3次面	10号遺構	1	2 打鉢	80%	-	-	-	帆船・笠底六角形
153	3次面	10号遺構	1	2 植鉢	-	-	-	-	帆船鉢?
154	3次面	10号遺構	1	3 瓶	75%	山水画・解剖模日文	-	-	帆船
155	3次面	10号遺構	1	6 不明?	-	-	-	-	帆船鉢付・無輪
156	3次面	10号遺構	1	3 瓶	75%	新文	-	-	不明土製品
157	3次面	10号遺構	1	3 小皿	50%	梅花文	-	-	帆船
158	3次面	10号遺構	1	3 河井	20%	-	-	-	透明物・加文
159	3次面	10号遺構	1	3 扇形	35%	松文	口端部二重圓錐	二重圓錐内五弁花文	帆船・高台内二重圓錐
160	3次面	10号遺構	1	3 扇形?	65%	若松文・垂唇形二重圓 錐	-	-	舟
161	3次面	10号遺構	1	3 丸形瓶	25%	草花文・高台底二重圓 錐	-	-	帆船・高台内文字あり
162	3次面	10号遺構	1	3 皿	99%	花唐草文	花鳥文	-	典藏・高台内一重圓錐・ 高台内ハリ支え底(1 ヶ所)
163	3次面	10号遺構	1	3 皿	80%	花唐草文	花鳥文	-	典藏・高台内ハリ支え底(1 ヶ所)・高台内二重圓錐
164	3次面	10号遺構	1	3 皿	80%	唐草文	花文	-	典藏・口縁部輪花・高台内 二重圓錐(口縁部内ハ リ支え底(1ヶ所))
165	3次面	10号遺構	1	3 皿	80%	唐草文	花文	-	典藏・口縁部輪花・高台内 一重圓錐・高台内ハ リ支え底(1ヶ所)
166	3次面	10号遺構	1	3 皿	75%	唐草文	花文	-	典藏・口縁部輪花・高台内 一重圓錐・高台内ハ リ支え底(1ヶ所)
167	3次面	10号遺構	1	3 皿	75%	唐草文	花文	-	典藏・口縁部輪花・高台 内一重圓錐・高台内ハ リ支え底(1ヶ所)付
168	3次面	10号遺構	1	3 皿	25%	唐草文	花文	-	典藏・口縁部輪花・高台 内一重圓錐
169	3次面	10号遺構	1	3 皿	25%	-	-	-	青磁系・小口鋸歯・加文
170	3次面	10号遺構	1	2 深鉢	25%	-	-	-	灰陶・無文
171	3次面	10号遺構	1	2 蓋	100%	竹文	無輪	-	灰陶系・江戸後期
172	3次面	10号遺構	1	2 蓋	35%	-	-	-	更別系?
173	3次面	10号遺構	1	3 碗	40%	草文	梅花文	二重圓錐内五弁花文 (コンニヤク印押)・蛇 の目輪切手	くわわんか手・肥前系
174	3次面	10号遺構	1	2 片口器	75%	-	足付ハマヨ造者印(3 ヶ所)	帆船	透け・美濃系
175	3次面	10号遺構	1	2 片口器	35%	-	-	-	青磁系・小口鋸歯・加文
176	3次面	10号遺構	1	2 二重口ア桶	100%	絞納5ヶ所	-	-	青磁系・まと貝・江戸系
177	3次面	10号遺構	1	3 紅皿	100%	-	-	-	型押波形
178	3次面	10号遺構	1	3 皿	75%	草花文	-	-	帆船
179	3次面	10号遺構	1	3 皿	80%	-	-	-	透明物・加文
180	3次面	10号遺構	1	3 丸形瓶	20%	風雲文	-	-	帆船・高台内「宜明」
181	3次面	10号遺構	1	3 皿	90%	-	-	-	肥前系
182	3次面	10号遺構	1	2 皿	65%	-	-	帆船・底部肥土目縁 (3ヶ所)	肥前系・輪花
183	3次面	10号遺構	1	2 丸形瓶	100%	花文	-	-	透け・美濃系・二重圓錐
184	3次面	10号遺構	1	2 片口器?	25%	-	-	-	帆船・美濃系
185	3次面	10号遺構	1	2 皿	25%	-	-	-	帆船・美濃系
186	3次面	10号遺構	1	1 皿	40%	-	-	-	肥前身・筋にいぶし 色
187	3次面	10号遺構	1	1 皿	20%	-	-	-	在施系
188	3次面	10号遺構	1	2 中皿	20%	-	蛇の目輪切手	帆船・透け・美濃系	
189	3次面	10号遺構	1	2 皿	45%	-	胎土目輪底・肌露し	ツマミ上面に胎土目 輪底? 肌露し? 有輪?	肥前系
190	3次面	10号遺構	1	2 鉢	40%	無輪	胎土目輪底・胎土	-	二重波状・肥前系

松代城下町跡（M J 82）出土陶器観察表（4）

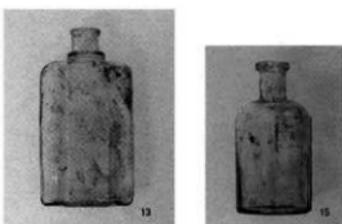
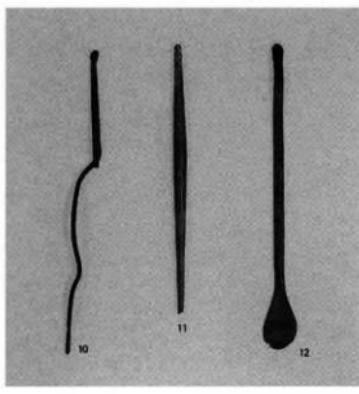
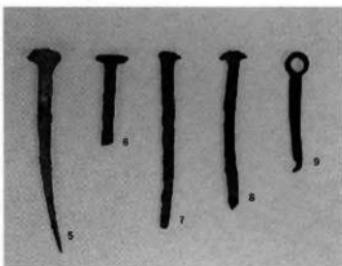
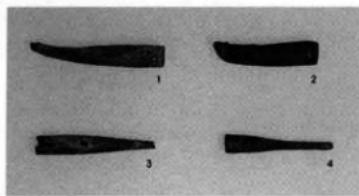
固番 通号	出土地点 開発区	遺物名	種別	縁附	器種	現存率 全・残	調査・文書			その他の 見込	その他の 記載
							外 面	内 面	文 様		
191	3次面	10号遺構	1	2	鉢	15%	-	-	-	灰釉	信濃守・屋根瓦
192	3次面	10号遺構	1	2	底鉢	10%	-	-	-	焼成?	肥前系?
193	3次面	10号遺構	1	2	底鉢	10%	-	-	-	-	肥前系?
194	3次面	10号遺構	1	2	底鉢	-	-	-	-	灰釉	信濃・美濃系
195	3次面	10号遺構	1	2	鉢	30%	-	-	-	-	信濃・美濃・吉野系
196	3次面	10号遺構	1	2	碗	-	墨灰釉	-	-	-	朝鮮唐津・江戸初期・肥前系
197	3次面	10号遺構	1	2	碗	-	-	-	日輪	-	朝鮮唐津・江戸初期・肥前系
198	3次面	10号遺構	1	2	碗	-	-	-	-	-	肥前系?
199	3次面	11号遺構	1	3	不明	60%	牡丹唐草文・西台階	-	-	高台内二重圓錐・底の日高台	信濃・美濃系(吉野)
200	3次面	11号遺構	1	2	花器	70%	花・葉・岩・寒月・菱形 人	-	-	-	菱形六角形・中國系?
201	3次面	11号遺構	1	2	瓶	-	-	-	-	底板赤切痕	-
202	3次面	11号遺構	1	3	器物	-	傳文	-	-	-	調理用器物
203	3次面	11号遺構	1	3	馬糞燒	15%	文字あり「藤田山口」	-	-	-	-
204	3次面	11号遺構	1	1	甕	60%	ナデ・茶ケズリ	ナデ	-	京都亞弓(後成坂)	-
205	3次面	14号遺構	1	3	瓶	40%	唐草文・口横部・直腹部 ・高台内二重圓錐	後・日本・口縁部・直腹部 二重圓錐内五舟花文 文字あり	-	-	肥前系
206	3次面	16号遺構	1	2	瓶	30%	-	-	-	-	肥前系(京成氣賀郡)
207	3次面	16号遺構	1	3	壓鉢鏡	30%	草花文	-	-	-	肥前系
208	3次面	16号遺構	1	3	瓶	30%	無文	-	-	透明地	肥前系
209	3次面	19号遺構	1	3	甕	30%	草花文	-	-	-	肥前系
210	3次面	19号遺構	1	3	瓶	-	草花文・高台内二重圓 錐	開き口	-	-	肥前系
211	3次面	19号遺構	1	2	甕	20%	-	-	-	底板断片	肥前系
212	3次面	17号遺構	1	3	馬糞燒	50%	花唐草文	-	-	-	18c~
213	3次面	17号遺構	1	3	甕	25%	竹文	-	-	-	-
214	3次面	17号遺構	1	2	丸形容	30%	草花文	-	移目取	-	京・信濃系?
215	3次面	17号遺構	2	2	甕	-	-	-	-	-	-
216	3次面	17号遺構	1	6	土製品	-	-	-	-	解・腹底残存・胎土に墨 付を含む	-
217	3次面	23号遺構	1	2	甕?	30%	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	底板赤切痕
218	3次面	23号遺構	1	1	甕?	-	-	-	-	-	-
219	3次面	後山面	1	1	小皿	25%	-	-	-	-	-
220	3次面	後山面	1	2	底鉢	30%	-	-	-	-	軽井系
221	3次面	後山面	1	2	丸形容	50%	傳文・高台二重圓錐	-	-	-	コバルト
222	3次面	後山面	1	3	甕	-	明日文・高台二重圓錐	-	-	-	明治
223	3次面	後山面	1	3	瓶	-	草花文	-	-	-	肥前系・18c前
224	3次面	後山面	1	3	甕?	-	-	-	-	-	肥前系・18c前
225	3次面	後山面	1	2	甕	-	草花文	-	-	-	肥前系
226	3次面	後山面	1	2	底鉢	-	貯入	-	-	-	長石緑(吉野)
227	3次面	後山面	1	3	甕	10%	鳥変形字	-	-	-	信濃・美濃系
228	3次面	後山面	1	3	甕	20%	ツバ・周・二重圓錐	-	-	-	肥前系・18c前
229	3次面	後山面	1	3	甕	5	草花文	砂透形文・波	-	-	江戸末期
230	3次面	後山面	1	2	甕?	-	-	-	-	-	肥前系
231	4次面	1号遺構	1	3	丸形容	30%	傳文・高台一重	-	五角花文(コンニヤク印 判)	高台内一重圓錐内文字 あり	肥前系・くわんか手
232	4次面	1号遺構	1	3	窓口?否?	30%	弧状文・二重圓錐・一重 圓錐	-	-	高台二重圓錐	肥前系
233	4次面	1号遺構	1	3	蓋	20%	草花文・二重圓錐	-	-	-	-
234	4次面	1号遺構	1	3	丸形容	75%	草花文・風景文	-	-	高台二重圓錐・高台 内・一重圓錐	肥前系
235	4次面	1号遺構	1	3	丸形容	5%	草花文	-	-	高台二重圓錐	肥前系
236	4次面	1号遺構	1	3	甕	10%	草花文	-	-	高台二重圓錐	肥前系
237	4次面	1号遺構	1	3	甕	5%	草花文	-	-	-	肥前系
238	4次面	2号遺構	1	3	腰鉢鏡	30%	草花文(コンニヤク印 判)	-	-	-	-
239	4次面	6号遺構	1	3	丸形容	50%	竹葉文	-	-	丸紋	肥前系・18c~
240	4次面	6号遺構	1	4	甕	30%	T字文	-	-	-	-
241	4次面	6号遺構	1	2	片口?	-	-	-	-	-	-
242	4次面	24号遺構	1	3	香炉?	5%	-	-	-	-	桃絵瓶

凡例

- 機削-1 土器・土製品 2 石製品 3 金属製品 4 玻璃製品 5 ガラス製品 6 その他の遺物
 ○糊割-1 土器・カフカケ 2 四角 3 細器(織物) 4 細器(色紙) 5 瓦・土管 6 その他の土製品
 ○残存率
 全体-完形成に対する割合を百分率で示している



第29図 金属・骨角・ガラス製品実測図 ($S = 1/3$)



その他の遺物観察表

番号	出土地名	形態	種類	材質	名 称	法 庫 (cm)				備 考
						長	幅	厚	容	
1	1次函 横浜市	3	鍍管	鋼合金	導管頭舟	6.3	1.1 (厚さ)	1.0 (小口付)	—	火薬欠損・内部漆字残存
2	1次函 1号遺構	3	鍍管	鋼合金	導管頭舟	4.9	1.4 (厚さ)	1.1 (小口付)	—	火薬欠損
3	3次函 10号遺構	3	鍍管	鋼合金	導管吸口	5.5	0.9 (小口付)	0.4 (内付鉢形)	—	口付鉢欠損
4	3次函 10号遺構	3	鍍管	鋼合金	導管吸口	5.1	0.9 (小口付)	0.4 (内付鉢形)	—	口付鉢欠損
5	4次函 6号遺構	2	耳	鉄	圓筒形	7.2	1.2 (底部幅)	0.5 (底部幅)	0.3 (厚さ)	
6	4次函 6号遺構	3	耳	鉄	頭丸形	3.2	1.1 (底部幅)	0.4 (底部幅)	0.4 (厚さ)	
7	4次函 6号遺構	3	耳	鉄	頭丸形	8.0	0.8 (底部幅)	0.5 (底部幅)	0.3 (厚さ)	
8	4次函 6号遺構	3	耳	鉄	頭丸形	5.5	0.9 (底部幅)	0.4 (底部幅)	0.4 (厚さ)	先端部欠損
9	10号遺構 3	金具類	鉄	不規則鉛品	4.2	0.8 (幅)	0.4 (厚さ)	—		
10	2次函 1号遺構	3	日用品	鉄	鉗?	13.6	0.52 (幅)	0.3 (厚さ)	—	
11	3次函 17号遺構	6	日用品	骨角	牙搔き	12.0	6.0 (幅)	—	—	
12	1次函 秋葉原	3	日用品	鋼合金	薬匙	13.6	0.45 (幅)	1.5 (底部幅)	0.3 (厚さ)	完形・頭部背面も小鉢形
13	1次函 1号遺構	5	日用品	ガラス	硝子瓶	9.1	1.6 (口幅)	4.9 (幅)	2.4 (厚さ)	化粧品類の瓶か
14	2次函 秋葉原	5	日用品	ガラス	硝子瓶	4.6	2.2 (口幅)	3.4 (幅)	—	イシケ瓶
15	3次函 15号遺構	5	日用品	ガラス	硝子瓶	6.8	1.55 (口幅)	3.5 (幅)	—	美濃・日吉村付
16	3次函 12号遺構	5	日用品	ガラス	管?	4.3	0.8 (幅)	0.6 (厚さ)	—	世良文・直熱瓶あり

凡例

○無記…1:土器・土製品 2:石製品3:金属製品 4:植物製品 5:ガラス製品 6:その他の遺物

○法庫…a:全長ないし全高を示す



①-1



①-2、3



④-25



③-4



③-11



③-3



③-30~35



④-1

第Ⅲ章　まとめ

第1節　絵図史料から見る土地利用

開発予定地は松代町の中心部にあたり、武家屋敷の推定地である。それも1軒当たりの屋敷地面積が大きいことを考慮すれば、松代藩の政治体制の中でも比較的上級武士の屋敷地と考えられる。真田家文書などの古文書や絵図面などに記載された当該地における土地利用の推移について、災害との関係から概説する。

近世松代城下町の災害については、大火をまとめた北村保（北村1987・1992）や、戊の大洪水を考察した丸山岩三（丸山1990）の論文がある。今回の発掘調査では、明確な洪水層については確認できなかったが、焼土層からは多量の出土遺物に恵まれた。しかし焼土層は上層の擾乱による混入が著しく、明確な時期比定はできなかつた。北村の考察により、今回の発掘調査地である殿町が被災した大火を挿入して土地利用の推移を見てみたい。

1	2004（平成16）年	八十二銀行松代支店（新築開店）
2	2003（平成15）年	更地（発掘調査実施）
3	~2002（平成14）年	松代ショッピングセンター（西友松代店）
4	1955（昭和30）年代	原松代製糸所
5	1913（大正2）年	本六工社製糸松代出張所？
◎	1870（明治3）年	牛札種植
6	1868（明治初）年	飯島新兵衛
7	1850（嘉永3）年頃	恩田孝太郎
◎	1847（弘化4）年	善光寺大地震
8	1826（文政9）年	恩田右膳
◎	1800（寛政12）年	市場火事
◎	1788（天明8）年	河内屋火事
9	1750（寛延3）年	恩田新六
◎	1742（寛保2）年	戊の大洪水
◎	1733（享保18）年	荒町火事
◎	1717（享保2）年	湯本火事

発掘調査では江戸時代後期までの遺物しか確認できていないが、恩田家の屋敷地と考えられる。参考までに『真田家家中明細書』に記された前述の2名について、その役職などの推移を挙げる。

◎ 恩田右膳（高500石）

- 1 1781（安永10）年 御用人見習
- 2 1787（天明7）年 家督相続
- 3 1815（文化12）年 50石加増
- 4 1824（文政7）年 御城代

◎ 恩田孝太郎（高500石）

- 1 1834（天保5）年 家督相続
- 2 1846（弘化3）年 孝太郎 義 新六と改名
- 3 1848（嘉永2）年 御側御用人
- 4 1853（嘉永6）年 慧御旗奉行
- 5 1860（安政7）年 大目付
- 6 1862（文久2）年 御城代
- 7 1863（文久3）年 御中老職
- 8 1867（慶応3）年 御城代
- 9 1871（明治4）年 大尉

第2節 遺構から見た武家屋敷地の一様相

今回の発掘調査にて検出された遺構のうち、江戸時代と考えられる遺構は③次面以下、つまり焼土層（③-10・15～17）、建物跡（③-18～23・29・34・35）、土坑（③-30・④-2）、溝状遺構（③-11・12・31～33・④-5・7）埋め桶（③-3・4・④-25）、池状遺構（④-1・6・24）などがある。これらの性格としては文献の記載にある恩田家の屋敷に関する遺構である可能性が考えられる。建物遺構は、松本城下町跡の発掘調査成果によると、16世紀後半は掘立柱建物が主流であり、17世紀前半には掘立柱建物が消滅し、礎石・布堀り礎石へ変化するという（竹内2000）。今回の発掘調査では16・17世紀代の遺構は未確認であるが、松代においても同様な傾向がみられるものと考えられる。

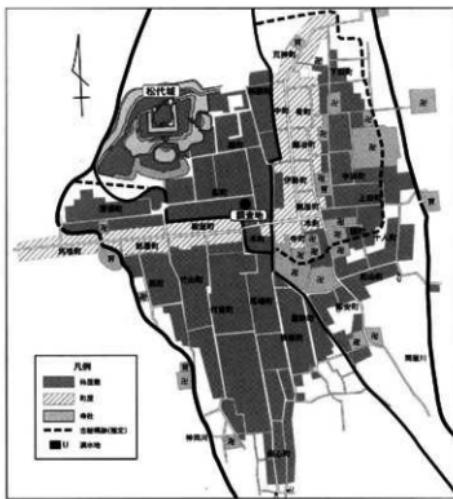


図30 松代城下町の地図(復元図)
(文政年間(1823年頃)、北村1998を基準・修正)

第3節 水関係の遺構

水関係の遺構としては、木桶・竹桶、分かれ枡・集水橋、井戸などは検出されなかったが、石組み溝（③-11・④-7）や木組み溝（③-12）、池状遺構（④-1・6・24）があげられる。

石組み溝（③-11）は前述のとおり、現状においては雨落ち溝程度の規模ではあるが、国立史料館所蔵の『真田家文書』（26A さ1156、時期不明ながら19世紀前半か？）には、当該地を斜めに流れる泉水路が描かれており、これに該当する可能性も否定できない。また直接的な関係は不明であるが、排水機能が想定される木組み溝（③-12）と池状遺構（④-24）と切り合っており、泉水路としての機能を想定する一助となりうるであろう。松代には全国的に珍しい、様々な水系システムが存在している（長野市教委1982）。道路の中心を流れる「カワ」、宅地裏の境界線である背割を流れ武家地の菜園を潤す「セギ」、生活用水として屋敷地の泉水を直接つなぐ「泉水路」である。松代中央線の発掘調査で確認された木桶による上水施設の存在が明らかとなり、松代城下町全体において複雑で高度な水道施設が整備されていたことが推測できる。

引用・参考文献

- 飯田市教育委員会 2001 「飯田城下町道路」
- 飯山市教育委員会 2002a 「飯山城下清報センター戦地内道路」飯山市埋蔵文化財調査報告 第65集
- 飯山市教育委員会 2002b 「長野県史跡飯山城跡道筋確認調査報告」飯山市埋蔵文化財調査報告 第67集
- 江戸道路研究会編 2001 「図説 江戸考古学研究辞典」柏書房
- 江戸東京博物館編 1993 「江戸東京博物館総合案内」財團法人江戸東京歴史財团
- 大塚初良ほか 1994 「八百八町の考古学」シンポジウム江戸を掘る 山川出版社
- 大橋康二編 1988 「肥前陶磁の変遷図」「別冊太陽 古伊万里」日本のこころ63 平凡社
- 大橋康二 1989 「肥前陶磁」考古学ライブリー55 ニュー・サイエンス社
- 大橋康二 2000 「九州陶磁概論」「九州陶磁の編年」九州近世陶磁学会10周年記念 国録
- 大橋康二 1995 「建築史からみた発掘資料」「季刊考古学」第53号 特集江戸時代の発掘と文化 雄山閣出版
- 北原承子 1999 「江戸城外掘物語」ちくま新書209 桜書房
- 北村 保 1987 「松代藩主の見聞録にみる江戸後期の松代城下町」「松代」—真田の歴史と文化 一創刊号 真田宝物館
- 北村 保 1992 「近世松代火薬難考」「松代」—真田の歴史と文化— 第5号 真田宝物館
- 北村 保 1993 「享保2年松代城類火薬失火跡」「松代」—真田の歴史と文化— 第6号 真田宝物館
- 古泉 弘 1983 「江戸を掘る」—近世考古学への招待— 柏書房
- 古泉 弘 1985 「江戸の街の出土遺物 一その展示ー」「季刊考古学」第13号 特集江戸時代を掘る 雄山閣出版
- 古泉 弘 1987 「江戸の考古学」考古学ライブリー48 ニュー・サイエンス社
- 国立史跡館編 1986 「真田家中明鑑書」財團法人東京大学出版会
- 斎藤 進 1997 「沙留道路における上水施設について」「沙留道路I」東京都埋蔵文化財センター調査報告第37集
- 坂詰智美 1999 「江戸城下町における「水」支配」専修大学出版局
- 佐々木邦博・米林由美子・平岡直樹 2001 「城下町松代(殿町地区)において江戸時代に造られた泉水路の形成過程とその用途」『日本造園学会誌』Vol. 64 No. 5 日本造園学会
- 佐々木達夫 1985 「物資の流れ 一江戸の陶器墓」「季刊考古学」第13号 特集江戸時代を掘る 雄山閣出版
- 米川典昭・山下伊千造・南志郎 1992 「千曲川下流の歴史洪水の復元と考察」「土木史研究」第12号
- 信州大学工学部建築学科工芸室研究室 1984 「長野市松代三町伝統環境保存計画策定調査報告書」
- 新宿区内藤町道路調査会ほか 1992 「内藤町道路」
- 竹内誠監修 2002 「ビジュアルガイド江戸時代館」全1巻 小学館
- 竹内 清之 2000 「松本城下町における成立過程の様相」「信濃」第52巻第10号 通巻第609号 信濃史学会
- 東京大学埋蔵文化財調査室 1998 「東京大学構内道路調査研究年報」2
- 東京都教育委員会 1991 「東京の道路網」—お江戸八百八町地下探査— 国録
- 長野市教育委員会 1982 「庭園都市 松代」伝統的建造物群保存対策調査報告書
- 長野市教育委員会 1984 「潤いのある庭園都市づくり」
- 長野市教育委員会 1993 「史跡 松代藩主真田家墓所」長野市の埋蔵文化財第59集
- 長浜文化財シンポジウム実行委員会 2000 「近世城下町の諸相」シンポジウム発表資料
- 日本貨幣商協同組合 2001 「日本貨幣カタログ」
- 林英夫・青木美智男編 2001 「事典 しらべる江戸時代」柏書房
- 降矢 貢男 2001 「甲信地方における肥前陶磁の出土状況について」「国内出土の肥前陶磁」第11回九州近世陶磁学会資料
- 星越 正雄 1995 「日本の土木」増補改訂 新人物往来社
- 本田博太郎 1970 「松代町の民家」長野県教育委員会
- 松代藩文化施設管理事務所 1999 「城下町松代」真田宝物館開館30周年記念 特別展国録
- 松本市 1989 「史跡松本城北外堀附土塁発掘調査報告書」
- 松本市教育委員会 1989a 「史跡松本城黒門枡形内発掘調査報告書」
- 松本市教育委員会 1989b 「松本市西西馬出道路緊急発掘調査報告書」松本市文化財調査報告書 No79
- 松本市教育委員会 1996 「松本城下町跡 伊勢町一近世、町屋跡の発掘調査一」 松本市文化財調査報告書 No122
- 松本市教育委員会 1997 「松本城下町跡 伊勢町第8・9・12次、本町第1・2次」—平成8年度試掘調査報告書一 松本市文化財調査報告書 No129
- 松本市教育委員会 2000 「松本城下町 本町第5次、伊勢町第19・21・22次、中町第1・2次、宮村町第1次」—平成10・11年度試掘調査報告書一 松本市文化財調査報告書 No149
- 松本市教育委員会 2001 「松本城下町 伊勢町第23・24・25次」—平成12年度試掘調査報告書一 松本市文化財調査報告書 No154
- 丸山 岩三 1990 「寛保2年の千曲川洪水に関する研究(1)~(4)」「水利科学」第34巻第1~4号
- 山田啓一・田辺淳 1985 「千曲川における寛保2年(1742)8月大洪水の考察」「第5回日本土木史研究発表会論文集」

報告書抄録

ふりがな	まつしろじょうかまちあと ～とのまち～						
書名	松代城下町跡（2）～般町～						
副書名	八十二銀行松代支店新築工事にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ名	長野市の埋蔵文化財						
シリーズ番号	第110集						
編著者名	飯島 哲也・宮沢 浩司・森田 利枝						
編集機関	長野市教育委員会 長野市埋蔵文化財センター						
所在地	〒381-2212 長野県長野市小島田町1414番地 TEL 026-284-0004・FAX 026-284-0106						
発行年月日	2005（平成17）年3月31日						
印刷所	奥山印刷工業株式会社（〒381-0022 長野市大豆島本郷前5959-1 TEL 026-221-3243）						
所収遺跡	所在地	コード		経緯度	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				
まつしろじょうかまちあと 松代城下町跡	ながのけんながの しまつしろまち 松代174-1 他	20201	F-033	北緯 36° 33'34" ~ 390m ² 東經138° 12'11"	20031001 ~ 20031106	店舗建設	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
松代城下町跡	集落跡	江戸時代後期	石組溝状遺構、埋め桶、上坑	陶磁器、土器・土製品 金属製品（釘、煙管、笄など） 骨角製品（耳搔き） ガラス製品（瓶など）			
		江戸時代末期～明治時代初期	石組溝状遺構、木組溝状構石、埋桶、上坑				
		明治時代前期～昭和初期	石積み遺構、暗渠遺構				
		昭和	板組遺構、溝状遺構				
要約	調査地は、松代城下町の中央部に位置し、上級武士の屋敷地にあたる。調査では、江戸時代後期から明治にかけての埋め桶や石組みの溝状遺構、上坑などを確認した。						

長野市の埋蔵文化財 発掘調査報告書一覧

1968年	第1集	【信濃長原古墳群】	1994年	第60集	【田平遺跡・宮ノ下道路】
1976年	第2集	【茂川遺跡】		第61集	【栗田城跡(2)】
1978年	第3集	【中村遺跡】		第62集	【茂川崩伏状地遺跡群 三輪遺跡(5)・小島御坂遺跡群 上中鳥遺跡】
	第4集	【塙崎遺跡群】		第63集	【原原遺跡(2)】
1979年	第5集	【塙崎遺跡群(2)】		第64集	【小島御坂遺跡群 宮西遺跡】
1980年	第6集	【三輪遺跡・付木内宮一元神社遺跡】	1995年	第65集	【茂川崩伏状地遺跡群 半札リバタスB地点遺跡(2)】
	第7集	【田中沖遺跡】		第66集	【石川条里遺跡(6)】
	第8集	【猿ノ井遺跡群】		第67集	【茂川崩伏状地遺跡群 本村東沢遺跡】
1981年	第9集	【四ヶ屋遺跡(第1～3次)・徳間遺跡・塙崎遺跡群(3)】		第68集	【茂川崩伏状地遺跡群 徳岡本原遺跡】
	第10集	【茂川谷古墳群・長札山古墳群・駒沢新町遺跡】		第69集	【石川条里遺跡(2)】
	第11集	【柏原水道跡・大峰水道跡・大木水道跡】		第70集	【八重田沖遺跡】
1982年	第12集	【茂川郷の道路跡・半札リバタスA・E地点】		第71集	【茂川崩伏状地遺跡群 ニツ宮遺跡(2)・吉川町東道路】
1983年	第13集	【茂川崩伏状地遺跡群・塙崎遺跡】		第72集	【塙崎遺跡群(3)・石川条里遺跡(9)】
	第14集	【石川条里の塙跡(2)・上駒澤遺跡】		第73集	【松代城跡】
	第15集	【前沢遺跡(2)】	1996年	第74集	【松代城跡 II】
1985年	第16集	【石川条里の塙跡(3)・(分上駒澤遺跡)】		第75集	【茂川崩伏状地遺跡群 吉川四ヶ屋道路・三輪遺跡(6)・農河原遺跡】
1986年	第17集	【茂川郷の道路跡・半札リバタスA・C・D地点】		第76集	【茂川崩伏状地遺跡群 萩原城跡・小島御坂遺跡群 中保遺跡】
1987年	第18集	【塙崎遺跡群・布道松第一小田井神社地点遺跡】		第77集	【茂川崩伏状地遺跡群 松ノ木山遺跡】
	第19集	【土口羽山墓古墳・重要埋蔵文化財緊急調査】	1997年	第78集	【有塙塚 I号墳・2号古墳】
	第20集	【三輪遺跡(2)】		第79集	【松代南遺跡】
	第21集	【序田小寺古墳遺跡】		第80集	【小島・柳原遺跡群 水内堂一元神社遺跡】
1988年	第22集	【長野古戸高校グラウンド遺跡】		第81集	【花川崩伏状地遺跡群 村山進遺跡】
	第23集	【長野古戸高校グラウンド遺跡】		第82集	【茂川崩伏状地遺跡群 松ノ木山遺跡】
	第24集	【塙崎遺跡群 V 錆殿遺跡】		第83集	【下見葉谷遺跡】
	第25集	【小島柳原遺跡群・南向川遺跡】		第84集	【茂川崩伏状地遺跡群 吉田古垂堂遺跡】
	第26集	【東垂堂遺跡】		第85集	【上久反遺跡】
	第27集	【小柴見跡】		第86集	【茂川崩伏状地遺跡群 寺村遺跡】
	第28集	【宮崎遺跡】	1998年	第87集	【長野道路跡・西阿波線】
	第29集	【茂川郷の道路跡群・茂川郷遺跡】		第88集	【小島柳原遺跡群 水内堂一元神社遺跡】
	第30集	【地形山附群】		第89集	【花川崩伏状地遺跡群 尾張城跡】
1989年	第31集	【町川遺跡】		第90集	【高森山古墳】
	第32集	【中条道路】		第91集	【花川崩伏状地遺跡群 西方遺跡・中沢船跡】
	第33集	【鶴巣遺跡】		第92集	【松代城跡 V】
	第34集	【石川条里遺跡(4)】		第93集	【茂川崩伏状地遺跡群(2)・田中沖遺跡】
	第35集	【猿ノ井遺跡群 II】	1999年	第94集	【茂川崩伏状地遺跡群 小北尾遺跡】
1990年	第36集	【星ヶ跡跡】		第95集	【内酒造跡群 高野通跡】
	第37集	【猿ノ井遺跡群 III】	2000年	第96集	【南宮遺跡 II】(第2分墳・横構編)
	第38集	【栗田城跡・下宇木遺跡・三輪遺跡(3)】	2001年	第96集	【南宮遺跡 II】(第2分墳・遺構編)
1991年	第39集	【塙崎遺跡群(6)・石川条里遺跡(5)】		第97集	【長野古戸高校グラウンド遺跡 II】
	第40集	【松原城跡】		第98集	【日田氏細野・岩崎遺跡】
	第41集	【小島柳原遺跡群・布道松第一中保遺跡・茂川郷の道路跡・柳原遺跡】		第99集	【茂川崩伏状地遺跡群 岩崎通跡】
1992年	第42集	【田中沖遺跡 II】		第100集	【茂川崩伏状地遺跡群 徳岡本原通跡】
	第43集	【南宮遺跡】	2002年	第100集	【南宮遺跡 II】(第3分墳・写真編)
	第44集	【塙崎遺跡群(7)】		第101集	【国ノ城遺跡 II】
	第45集	【石川条里遺跡(6)】		第102集	【浅川遺跡(2)・差出遺跡 三合屋西古墳・石川条里遺跡(10)】
	第46集	【猿ノ井遺跡群(4)】	2003年	第103集	【猿ノ井南条遺跡・茂川崩伏状地遺跡群辰巳池遺跡・浅川崩伏状地遺跡群 本郷前遺跡】
	第47集	【茂川郷の道路跡群 二ツ宮遺跡】		第104集	【茂川崩伏状地遺跡群 德岡本原通跡】
		【木戸原遺跡・田浦遺跡】		第105集	【茂川崩伏状地遺跡群 天神木遺跡・柳爪遺跡・梅原堂遺跡】
		【塙崎遺跡群】		第106集	【茂川崩伏状地遺跡群 南条遺跡】
	第48集	【小鳥原遺跡群 中保遺跡 II】		第107集	【辰巳町崩伏状地遺跡群 西方遺跡(2)】
1993年	第49集	【茂川崩伏状地遺跡群 三輪遺跡(4)】		第108集	【茂川崩伏状地遺跡群 桐原官衙遺跡・梅原堂遺跡・吉田木屋敷遺跡・辻日遺跡】
	第50集	【茂川郷の道路跡群 木本東沢遺跡】		第109集	【松代城下町跡(2)・中町・西木町・西木町・相模町～】
	第51集	【松原遺跡 I】			
	第52集	【田代原遺跡】			
	第53集	【岩崎遺跡】			
	第54集	【古町通城跡人冢】			
	第55集	【茂川郷の道路跡群 駒沢新町遺跡 II】			
	第56集	【上見林遺跡】			
	第57集	【石川条里遺跡(7)】			
	第58集	【松原遺跡 III】			
	第59集	【史跡松尾瀬主眞田家墓所】			

長野市の埋蔵文化財第110集

松代城下町跡(2) ～殿町～

平成17年3月24日 印 刷

平成17年3月31日 発 行

発 行 長野市教育委員会

編 集 文化財課埋蔵文化財センター

印 刷 奥山印刷工業株式会社